

4.5 e！市民健康講座

4.5 e! 市民健康講座プログラム

本実証実験の状況を広く「市民に対してPRするための活動」を行い、市民全体のQOL (Quality of Life) に対する理解度を向上させる目的で、「e! 市民健康講座プログラム」を企画した。

高齢者を対象としたケア・介護を考える時、まずは家族が介護の担い手として期待される。しかし、家族だけでは負担が大きすぎ、介護するはずであった家族が健康障害をきたす例も多々ある。そこで高齢者とその家族を一つの単位としてとらえ、援助システムを考え、その高齢者と家族がより快適に生活できるようにするためには、看護医療の専門家による援助とともにコミュニティレベルでの支援が必要である。

本プロジェクトの推進母体である藤沢市の住民は、ケア・介護の対象者でもあるが、ケア・介護の担い手、協力者予備軍でもあり、共に生きるコミュニティメンバーとして高齢者を理解し、支えていくべき人たちでもある。たとえ、藤沢市民の多くは直接的なケア・介護の担い手や協力者となることが困難であっても、理解者が増えれば、高齢者とその家族は生活しやすくなるはずである。

このような考え方に立ち、市民健康講座プログラムでは、藤沢市民を対象に、インターネットを利用して遠隔・市民健康講座を開講し、健康や医療・看護に関連した情報を提供し、高齢者、家族、市民が医療・看護スタッフと共に協力しあって健康の維持促進を図りたいと考えた。

平成14年度はその開設準備として、藤沢市民を対象にしたニーズ調査を行うとともに、インターネットを經由して、動画と音声（ビデオ）、静止画（写真、イラスト）、文字データを配信し、受信者の意見を聞き、今後、遠隔での市民健康講座を開講するための準備、マルチメディア教材開発の資料にすることとした。

4.5.1 e - 市民健康講座（遠隔教育）開設のためのニーズ調査

4.5.1.1 調査の概要

遠隔教育による e - 市民健康講座を開設するには、対象者となる藤沢市民の情報化の実情、情報化推進への機運、遠隔教育で学習したいと考える健康や医療に関する内容などを把握する必要がある。これらの内容について本プロジェクトの推進母体である藤沢市と慶應義塾大学看護医療学部とが共同で、実態調査を行った。

4.5.1.2 調査目的

藤沢市民の情報化の現状、情報化に対する考え、遠隔教育で学習したいと考える健康・医療に関する内容を知り、市の情報化推進、ならびに e-ケアタウンプロジェクト・

市民健康講座プログラム推進のための基礎資料を得ることを目的とした。

4.5.1.3 調査方法

(1) 調査基準日

2003年(平成15年)1月1日

(2) 調査対象

2002年(平成14年)12月1日現在の住民基本台帳を基準に、1987年4月1日以前に出生している方388,280人を調査対象とし、その中から、2000人を無作為抽出して調査を実施した。(抽出率=0.52%)

(3) 調査方法

郵送配布、郵送回収とした。

調査票発送日=2003年1月16日

回答締切日=2003年(平成15年)1月25日

(4) 回収結果

発送件数は2000件であった。

回収件数は860件であった。

回収率は43%であった。

(5) 調査結果の集計にあたって

設問には、単数回答、限定回答(選択肢を指定)、複数回答(あてはまるもの全てを選択)がある。図表のタイトルにことわりがないものは単数回答である。

4.5.1.4 調査内容

調査内容は、藤沢市と慶應義塾大学看護医療学部とが共同で行ったため、個人属性(性別、年齢、居住地区、職業)に加えて、藤沢市の情報化推進に必要な情報(携帯電話やPHS利用状況、メールやインターネット利用状況、インターネットの接続方法、ホームページ公開の有無、藤沢市のホームページへのアクセス状況、インターネットを利用しない理由、情報化への期待、インターネットを利用した行政サービスの希望内容)および本e-ケアタウンプロジェクト・市民健康講座プログラムの推進に必要な情報(健康、医療、看護に関する情報をインターネットで得た経験、インターネットを利用した健康、医療、看護に関する情報提供への希望、学習意志、学習したい内容、情報化に関して留意すべき点、その他の意見や要望等)から構成された。

4.5.1.5 調査結果

(1) 対象者の基本属性

回答者の性別

全回答者 860 人のうち、女性は 478 人 (55.6%) で、男性は 382 人 (44.4%) であり、女性が男性より約 10% 多く回答していた。(表 4.5- 1、図 4.5- 1)

表 4.5- 1 回答者の性別

	TOTAL	割合
男性	382	44.4%
女性	478	55.6%
無回答	0	0.0%
合計	860	100.0%

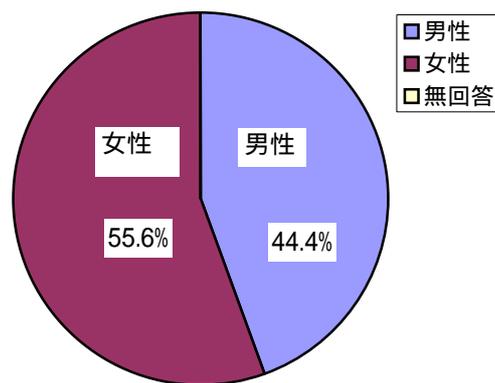


図4.5-1 回答者の性別割合

回答者の年齢

回答者の年齢を見ると、10歳代から70歳代まで広い層にわたっていたが、50歳代が最も多く、次いで60歳代、40歳代、30歳代の順であった。

性別と年齢層をクロスすると、最も多かったのは50歳代の女性で、次いで60歳代男性、40歳代女性、30歳代女性、60歳代女性の順に多く回答していた。(表4.5-2、図4.5-2)

表 4.5-2 回答者の年齢

	TOTAL	割合
1. 15～19歳	33	3.8%
2. 20歳代	101	11.7%
3. 30歳代	135	15.7%
4. 40歳代	147	17.1%
5. 50歳代	172	20.0%
6. 60歳代	161	18.7%
7. 70～80歳	107	12.4%
8. 無回答	4	0.5%
合計	860	100.0%

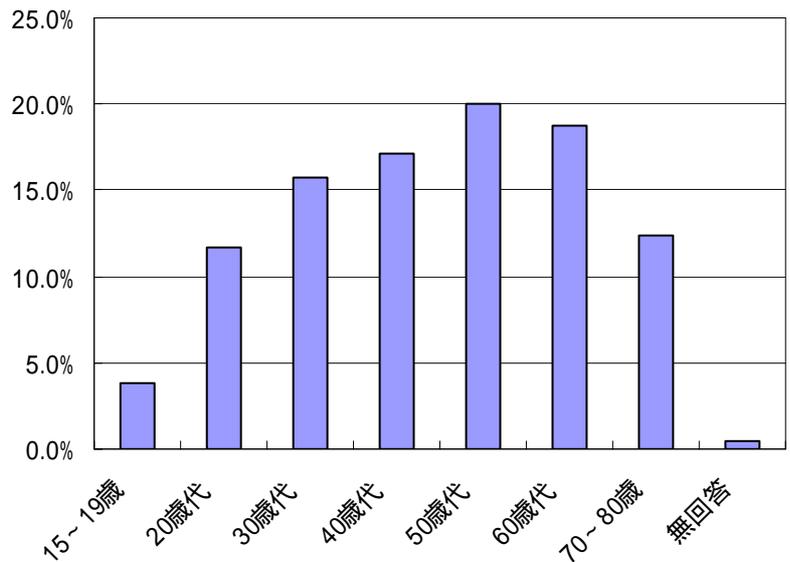


図4.5-2 回答者の年齢別割合

回答者の居住地区

居住地区別に回答者数を見ると、ほぼ市内全域にわたっていたが、鶺沼地区の回答者が最も多く、次いで藤沢地区、辻堂地区、長後地区、湘南大庭地区、善行地区の順であった。

(表4.5-3、図4.5-3 参照)

表 4.5-3 回答者の居住地区

地区	人数	割合
片瀬地区	47	5.5%
鵜沼地区	138	16.0%
辻堂地区	92	10.7%
村岡地区	57	6.6%
藤沢地区	106	12.3%
明治地区	45	5.2%
善行地区	67	7.8%
湘南大庭地区	70	8.1%
六会地区	62	7.2%
湘南台地区	52	6.0%
遠藤地区	19	2.2%
長後地区	74	8.6%
御所見地区	27	3.1%
無回答	4	0.5%
	860	100.0%

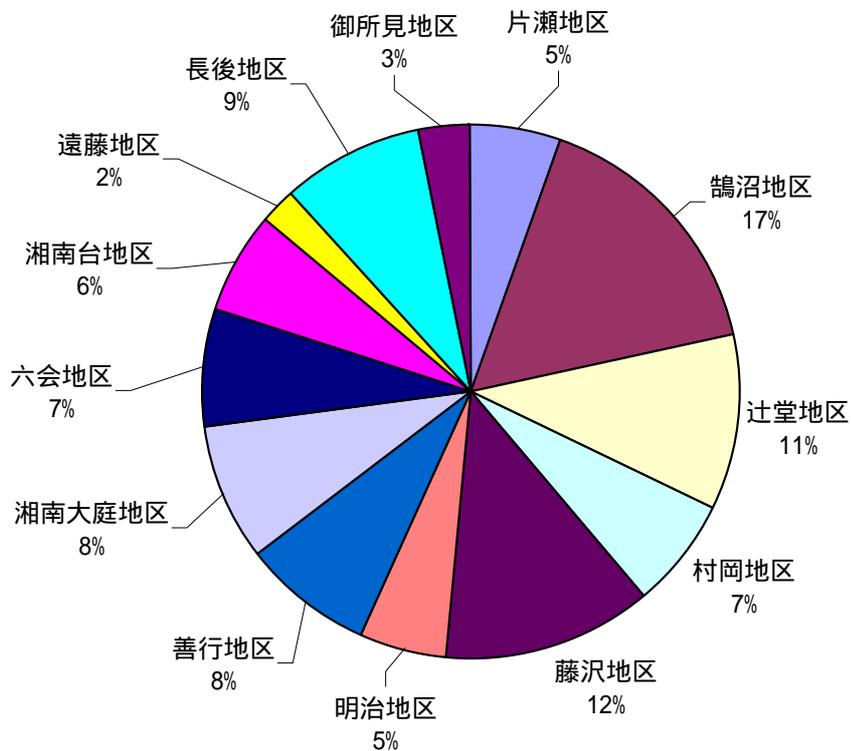


図4.4B-3 回答者の居住地区別割合

回答者の職業

回答者の職業を見ると、主婦（専業）が圧倒的に多く、次いで無職、主婦（パート、内職）、事務職、専門技術職、経営・管理職の順であった。

（表 4.5-4、図 4.5-4）

表 4.5-4 回答者の職業

職業	TOTAL	割合	職業	TOTAL	割合
農林漁業	6	0.7%	販売サービス職	41	4.8%
商工サービス自営業	16	1.9%	学生	53	6.2%
自由業	13	1.5%	主婦（専業）	207	24.1%

経営・管理職	59	6.9%	主婦（パート，内職）	88	10.2%
専門技術職	71	8.3%	その他	42	4.9%
事務職	74	8.6%	無職	135	15.7%
教育職	20	2.3%	無回答	2	0.2%
技能職	33	3.8%	合計	860	100.0%

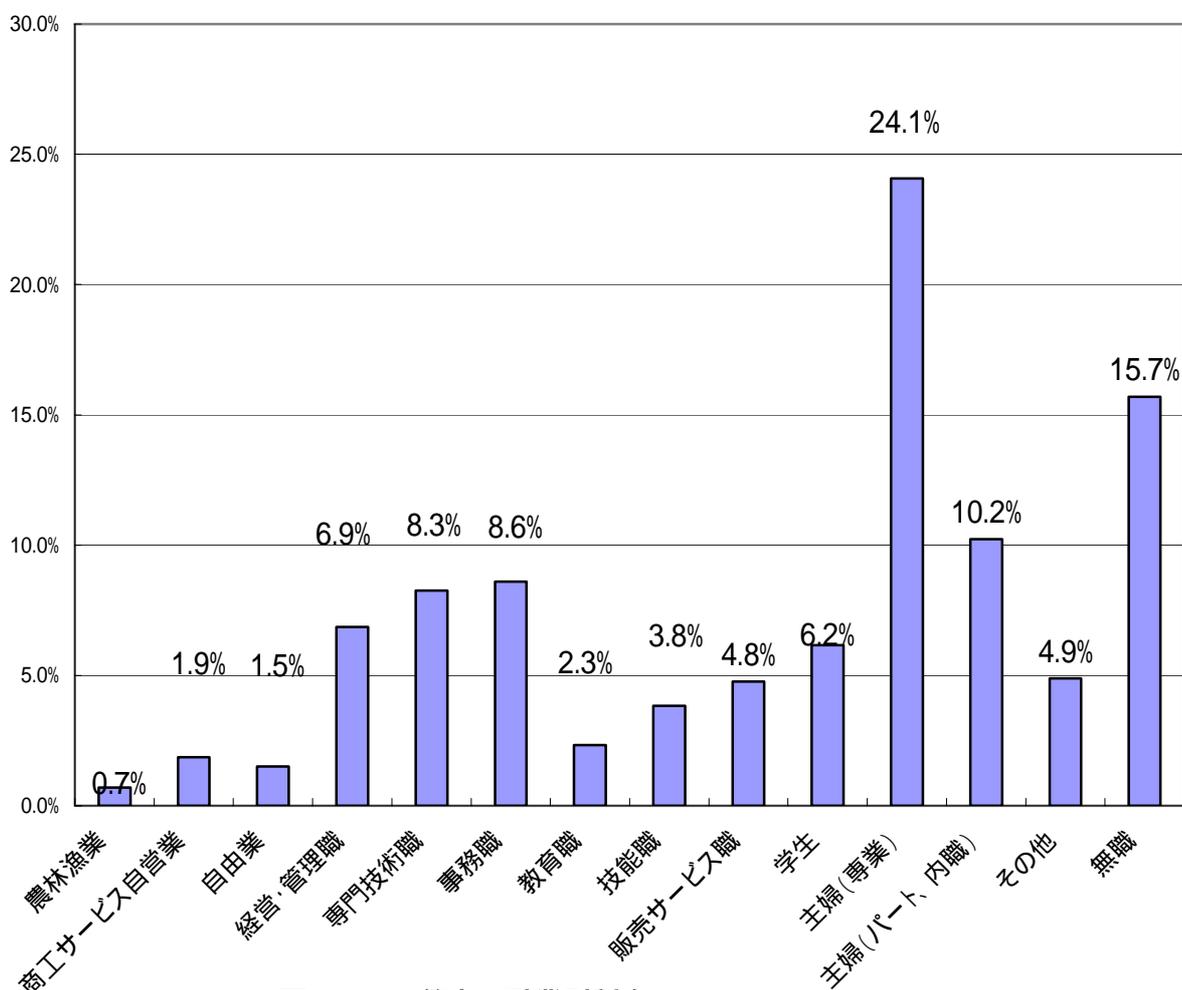


図4.5-4 回答者の職業別割合

(2) 藤沢市民の情報機器や情報サービスの利用状況

携帯電話・PHSの利用状況

携帯電話やPHSを「利用している」と回答した人は61.0%を占めた。(図4.5-5-1)

利用頻度は、「毎日」が60.6%、次いで多い「週に2~3回程度」を加えると86.0%であった。(図4.5-5-2)

携帯電話やPHSからインターネット接続サービスを「利用している」と回答した人は66.0%を占め(図4.5-5-3) 利用頻度は、「毎日」が61%、次いで多い「週に2~3回程度」を加えると86.0%であった(図4.5-5-4)。

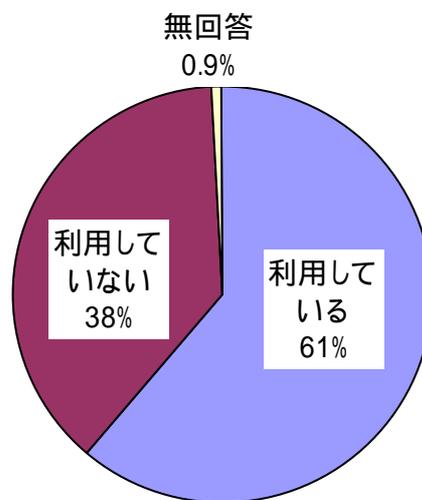


図.4.5-5-1.携帯・PHSの利用率

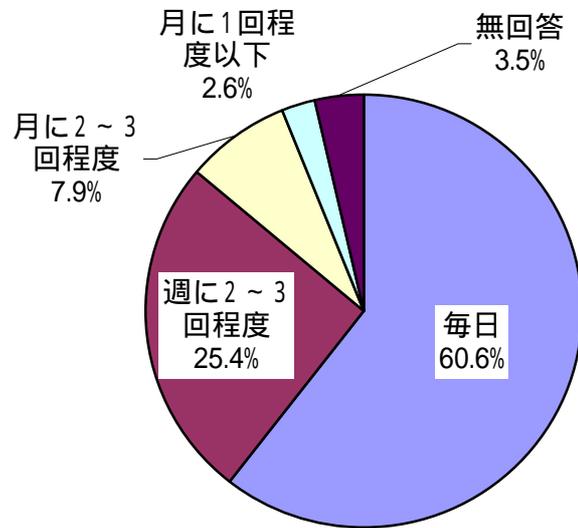


図4.5-5-2 携帯電話・PHSの利用頻度

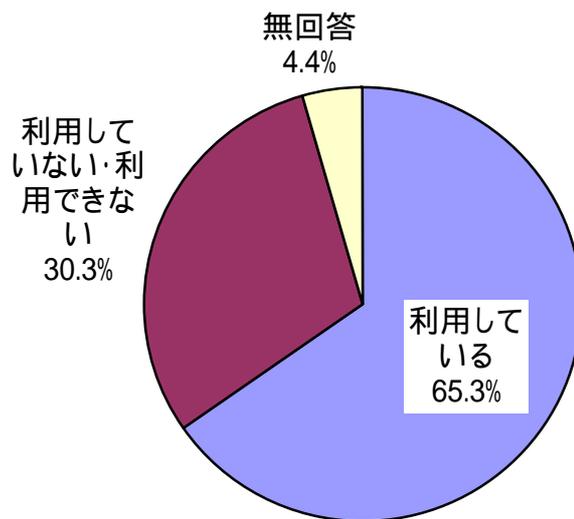


図4.5-5-3 携帯・PHSからのインターネット利用率

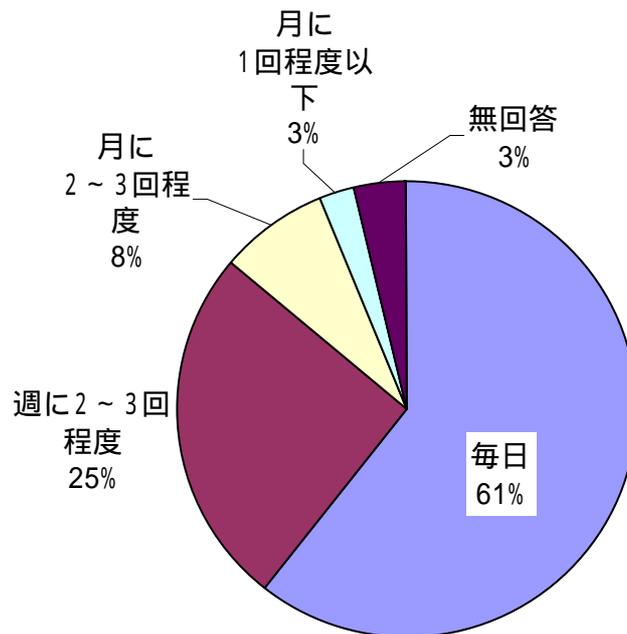


図4.5-5-4 携帯・PHSからのインターネット利用頻度

インターネット利用状況

a. インターネット利用率

携帯電話・PHSなどからの接続を含めて、インターネットを「利用している」と回答した人は57.8%を占め、「利用していない」と回答した方は40%であった。

2001年(平成13年)総務省統計局「社会生活基本調査」によると、全国のインターネット利用率は10歳以上の全国統計では46.4%、神奈川県は55.4%、15歳以上の全国統計では45.9%である。本調査による藤沢市民のインターネット利用率57.8%は、全国、および神奈川県の利用率より高い結果が得られた。(表4.5-5、図4.5-6-1)

(注：資料は、<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2001/shuyo/shuyo.htm> より)

表 4.5-5 インターネット利用率

	人数	割合
利用している	497	57.8%
利用していない	347	40.3%
無回答	16	1.9%
合計	860	100.0%

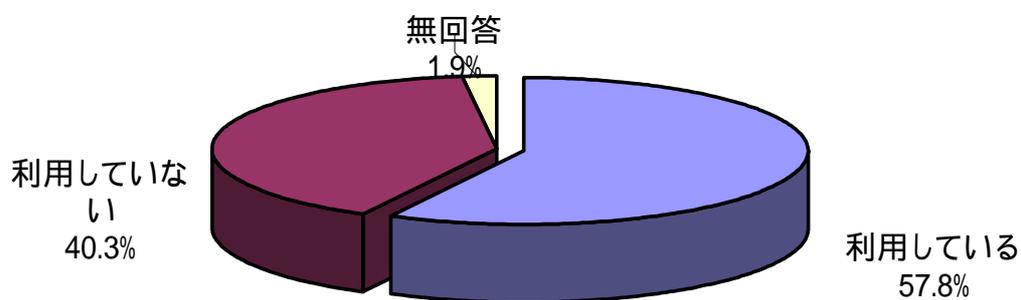


図 4.5-6-1 インターネット利用率

b. インターネット利用頻度

インターネットを「利用している」と回答した人の利用頻度を見ると、「毎日」が59%、次いで多い「週に2~3回程度」を加えると83%であった。(図 4.5-6-2)

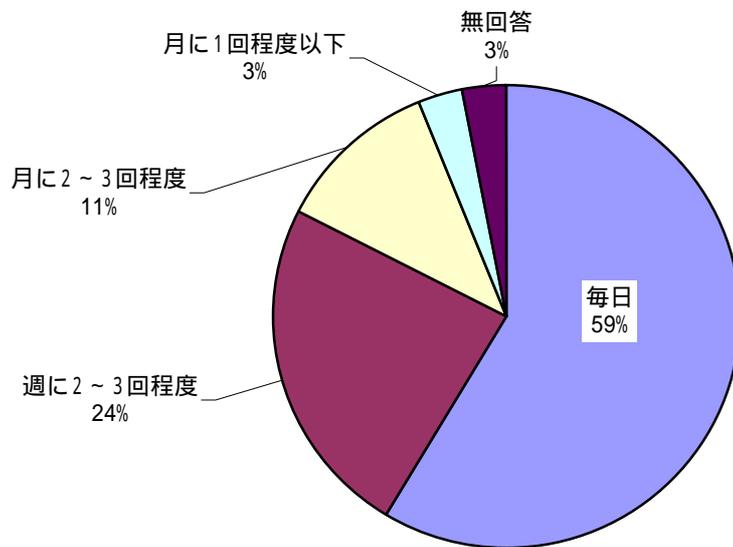


図 4.5-6-2. インターネット利用頻度

c. インターネットを使用する場所

インターネットを利用する主な場所は、「自宅」が61.4%で最も多く、次いで「職場」が27.4%を占めた。(図 4.5-6-3)

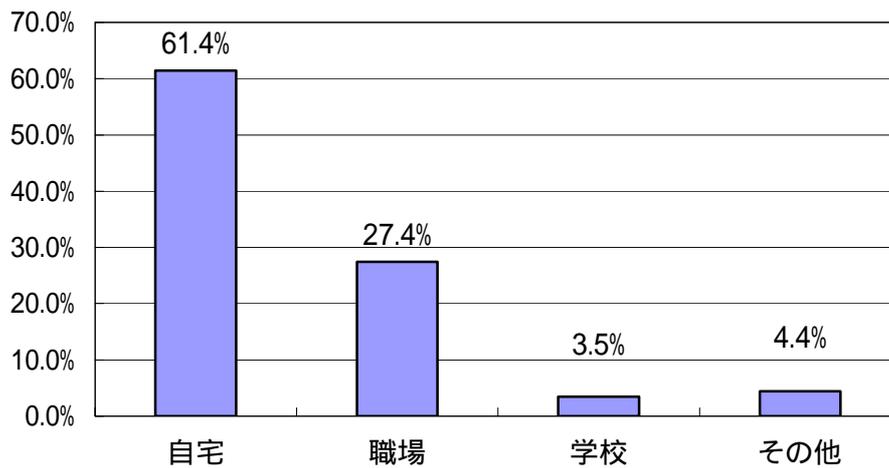


図 4.5-6-3 インターネット利用場所

d. インターネット接続環境

主なインターネット接続環境は、ADSL回線が25.8%、アナログ回線が17.0%、ISDN回線が14.7%、これらを合わせると7割近くを占めた。携帯電話などのモバイルは21%を占めていた。(図 4.5-6-4)

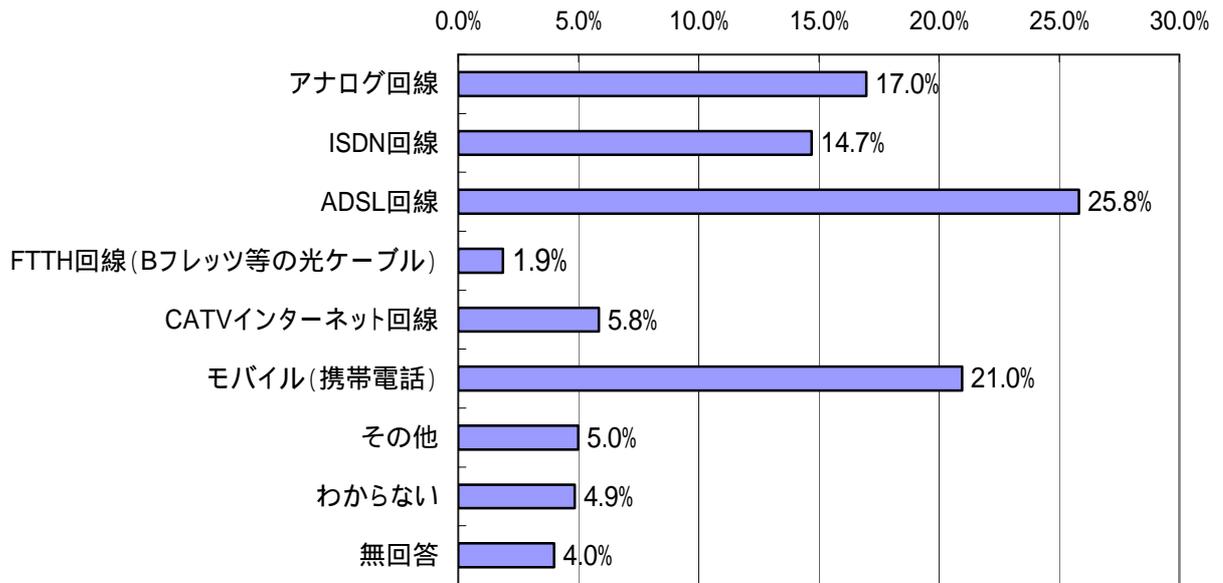


図 4.5-6-4 インターネット接続環境

e. インターネットでのホームページ公開の有無

個人でインターネットのホームページを公開している人は6%であった。

(図 4.5-6-5)

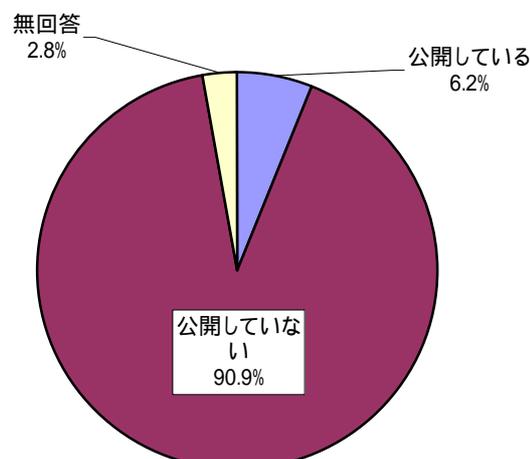


図 4.5-6-5 .ホームページ公開の有無

f. 電子メールの送受信の頻度

電子メールの送受信頻度は「毎日」と回答した人が47%、次いで多かった「週に2~3回」を加えると7割を占めていた。(図 4.5-6-6)

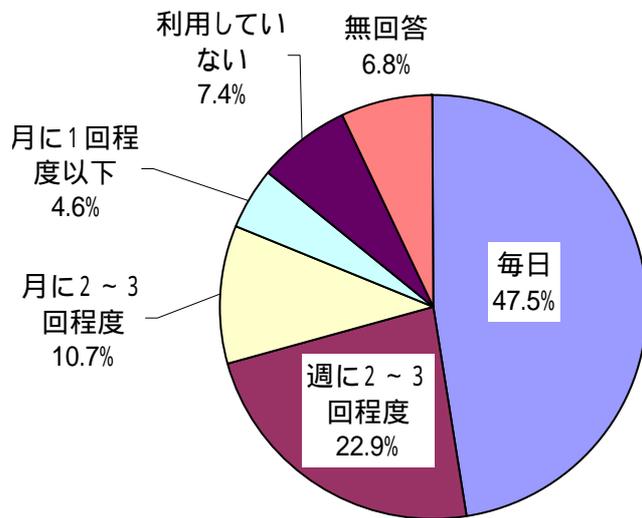


図4.5-6-6 電子メール送受信の頻度

g. 藤沢市のホームページへの閲覧頻度

藤沢市のホームページを閲覧したことがある人は、利用者の29.3%であった(「毎日」・「週に2~3回程度」・「月に2~3回程度」・「月に1回程度以下」と回答した人を合計したもの)。「知っているが見たことはない」と回答した人は33.8%を占め、ホームページの存在を認識していた人はインターネット利用者の63.1%を占めた。藤沢市民の市ホームページの認知度は比較的高いことがうかがえた。(図 4.5-6-7)

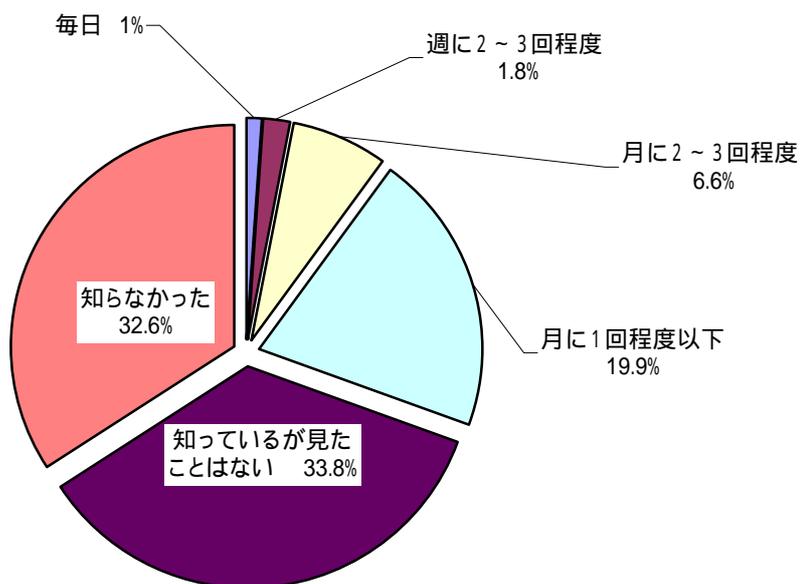


図 4.5-6-7 藤沢市のHP閲覧頻度

h. インターネットを利用しない理由

インターネットを「利用していない」と回答した人の「利用しない」主な理由は、「操作方法がわからない」が31.7%であった。次いで「パソコンなどの機器がない」19%、「始めるきっかけがない」13.5%、「利用価値が感じられない」13.2%が理由として挙げられている。インターネット利用を促進するためには、パソコン教室など、操作方法の学習へのサポートが重要であることがうかがえる。(図 4.5-6-8)

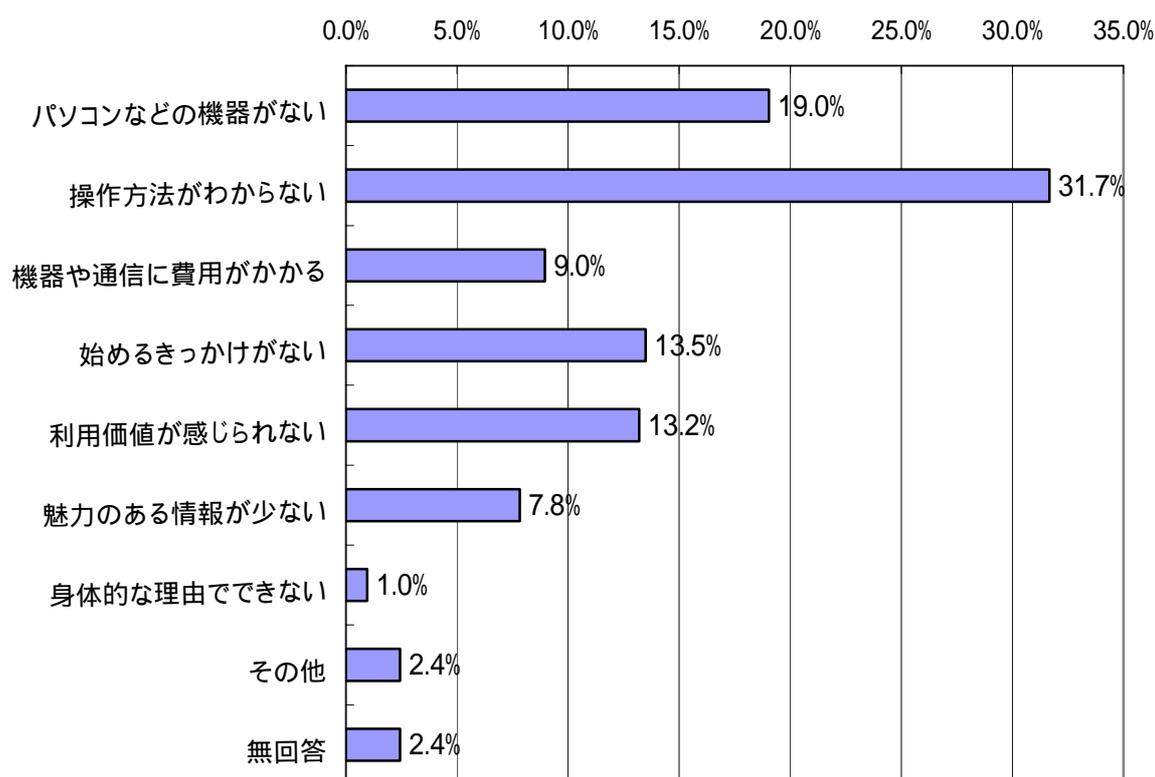


図 4.5-6-8 .インターネットを利用しない理由

i. 現在利用していない人のインターネット利用希望の有無

現在インターネットを「利用していない」と回答した人の、今後「利用したい」希望の有無については「ぜひ利用してみたい」「できれば利用してみたい」と回答した方が合わせて51%、「特に利用したいと思わない」と回答した人が39.8%であった。

(図 4.5-6-9)

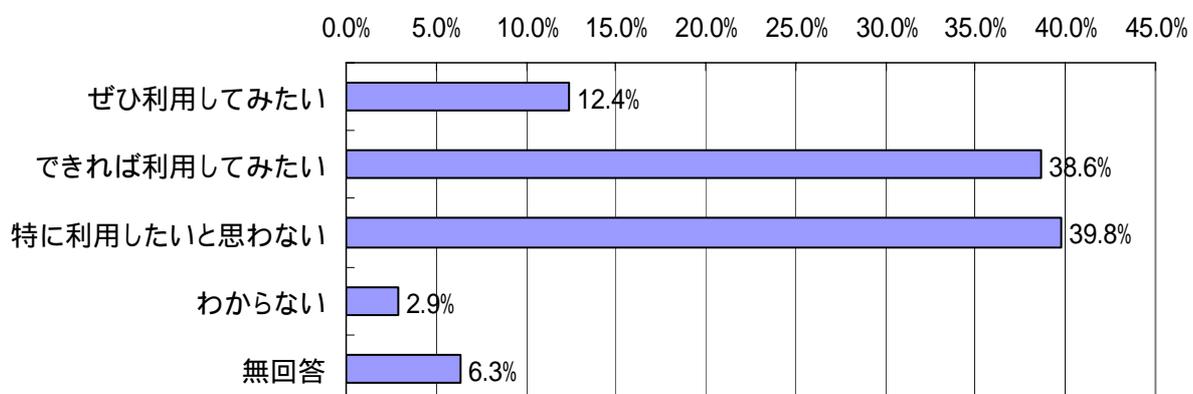


図 4.5-6-9 利用していない人の今後のインターネットの利用希望

市政に関する情報の入手方法

市政に関する情報の入手方法を複数回答で尋ねたところ、最も多かったのは「広報ふじさわ」を挙げた人で、全体（860人）の92.2%を占め、次いで、「藤沢市議会だより」が全体の54.8%、藤沢ケーブルテレビの「テレビ広報」が全体の19.1%であった。

（表 4.5-6、図 4.5-7）

表 4.5-6 市政に関する情報の入手方法（複数回答）

媒体	人数	割合/860人
「広報ふじさわ」	793	92.2%
「藤沢市議会だより」	471	54.8%
「スポーツの広場」など各課作成の情報誌やパンフレット類	101	11.7%
インターネットの藤沢市 HP	101	11.7%
ふじさわくらしのテレフォン・FAX ガイド	10	1.2%
藤沢ケーブルテレビの「テレビ広報」	164	19.1%
藤沢 FM 放送の「広報番組」	31	3.6%
直接来庁して職員から聞く	52	6.0%
直接電話して職員から聞く	108	12.6%
その他	44	5.1%
無回答	14	1.6%
合計記入件数	1889	

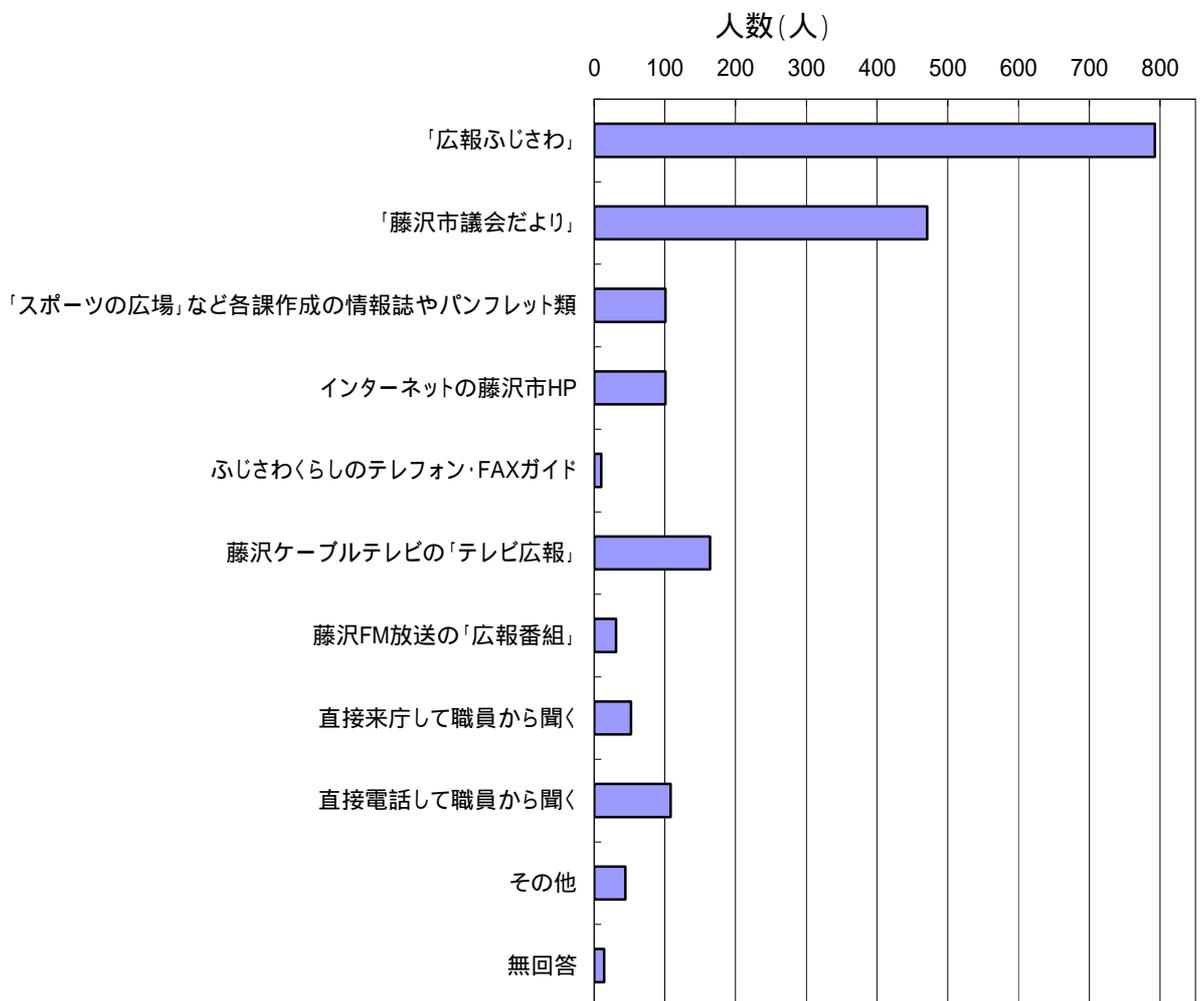


図 4.5-7 市政に関する情報の入手方法

情報化への期待

将来、インターネットなどを利用して地域や身の回りの情報化が進むことにより、どのような効果を期待するかを複数回答で尋ねた。「いつでもどこでも必要な情報が、簡単に入手できる」が全体（860人）の47.4%と最も多かった。次いで「自宅で気軽に医療や福祉などのサービスを受けられるようになる」が全体の34.4%であった。

（表 4.5-7、図 4.5-8）

表 4.5-7 情報化への期待

情報化への期待	TOTAL	割合
1 いつでもどこでも必要な情報が、簡単に入手できる	408	47.4%
2 自宅で気軽にショッピングやレジャーができるようになる	216	25.1%
3 自宅で気軽に医療や福祉などのサービスを受けられるようになる	296	34.4%
4 テレビ会議の利用や在宅勤務の進展で、労働時間や通勤時間が短縮され余暇の時間が増える	52	6.0%
5 遠隔学習や電子図書館などの実現により、教育や文化の水準が向上する	122	14.2%
6 遠隔地や外国の人々との交流ができ、交際範囲や行動範囲が拡大する	98	11.4%
7 自分の意見や映像、音楽などの作品を多くの人に伝えることができる	12	1.4%
8 無回答	50	5.8%

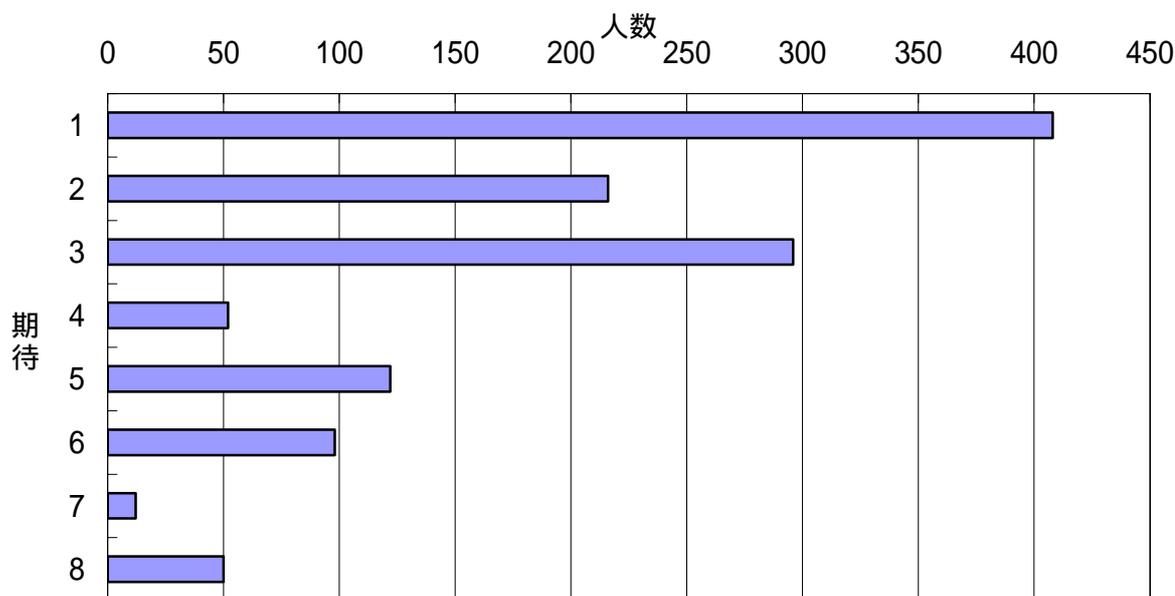


図4.5-8 情報化への期待

注

1. いつでもどこでも必要な情報が、簡単に入手できる
2. 自宅で気軽にショッピングやレジャーができるようになる
3. 自宅で気軽に医療や福祉などのサービスを受けられるようになる
4. テレビ会議の利用や在宅勤務の進展で、労働時間や通勤時間が短縮され余暇の時間が増える
5. 遠隔学習や電子図書館などの実現により、教育や文化の水準が向上する
6. 遠隔地や外国の人々との交流ができ、交際範囲や行動範囲が拡大する
7. 自分の意見や映像、音楽などの作品を多くの人に伝えることができる
8. 無回答

インターネットや情報機器を利用した行政サービス提供への希望

今後の行政サービスに関して、IT媒体による提供を希望するかどうか、下記の9項目について「ぜひ利用したい」「どちらかといえば利用したい」「あまり利用したいとは思わない」「全く利用したいとは思わない」「わからない」のいずれに当てはまるかを尋ねた。

「ぜひ利用したい」「どちらかといえば利用したい」を合わせた人数の合計割合が高かった順に挙げると、最も多かったのは、「インターネットを利用して、24時間どこからでも各種の申請手続きが出来る」が79.5%、次いで「市役所や市民センター等の公共施設で、銀行の自動支払機のような専用の端末機で各種証明書の発行や公共施設の予約が出来る」が75.3%、「コンビニエンスストア・郵便局・駅などで、各種証明書の発行や公共施設の予約ができる」が75.3%となっていた。(図 4.5-9)

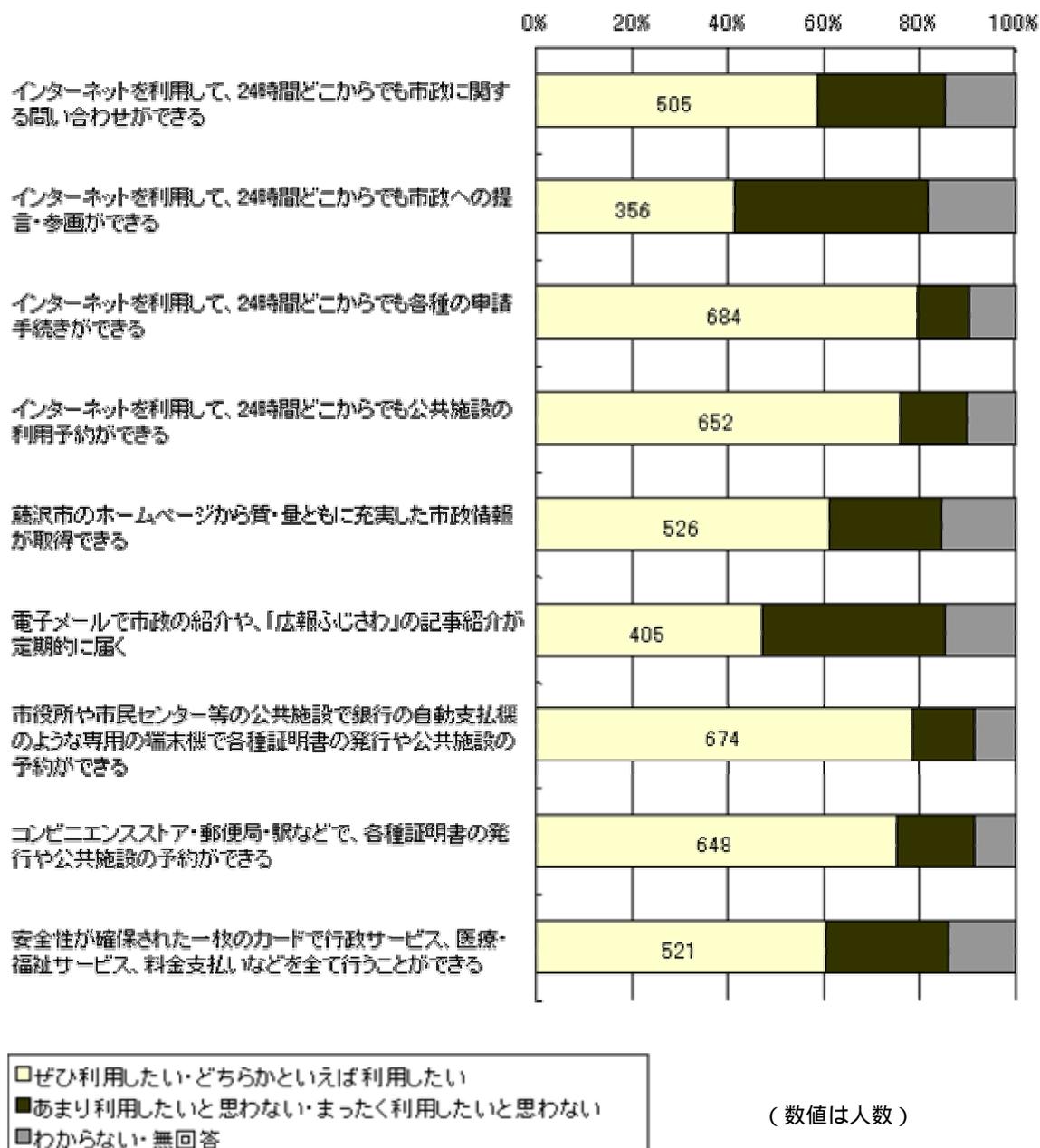


図 4.5-9 インターネットや情報機器を利用した行政サービス提供への希望

インターネット等を利用した健康・医療・看護の学習

a. インターネット等を利用した健康・医療・看護の情報取得、学習経験の有無

インターネットを利用した健康・医療・看護の情報取得、学習経験の有無について尋ねたところ、「利用したことがない」が 71%であり、「利用したことがある」の 26.3%

を大きく上回った。藤沢市のインターネット利用率 57.8% から考えて、健康・医療・看護分野の IT 媒体による情報提供が遅れているのではないかと考えられる結果であった。(表 4.5-8-1、図 4.5-10-1)

表 4.5-8-1 健康・医療・看護のインターネットによる学習経験の有無

	TOTAL	割合
利用したことがある	226	26.3%
利用したことがない	611	71.0%
無回答	23	2.7%
合計	860	100.0%

b. インターネットなどを利用した健康・医療・看護の情報取得，学習の希望

インターネットなどを利用した健康・医療・看護の情報取得や学習に対する今後の希望について尋ねた。「利用したい」が 76%で「利用したくない・利用できない」の 21.3%を大きく上回った。

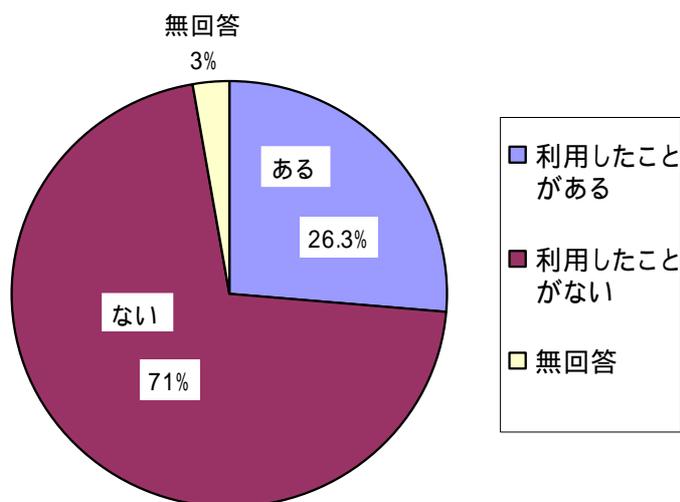


図 4.5-10 - (1) 健康・医療・看護のインターネット利用による学習経験の有無割合

表 4.5-8-2 インターネットによる健康・医療・看護の情報取得、学習希望

	TOTAL	割合
利用したい	652	75.8%
利用したくない ・利用できない	183	21.3%
無回答	25	2.9%
合計	860	100.0%

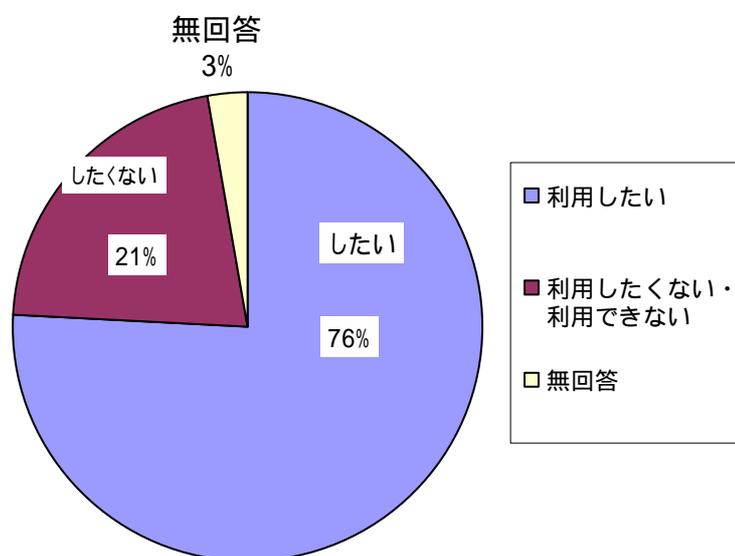


図 4.5-10-2 インターネットによる健康・医療・看護の情報取得、学習希望

c. インターネットを利用して学習してみたい内容

インターネットを利用して学習してみたい内容について、それぞれの項目についてどの程度、学びたいかを一つを選択してもらった。表 4.5-8-3 のような結果が得られ、それらをグラフ化したものが以下の図 4.5-10-3 である。どの内容でも高い傾向にあるが、多かった順に 5 つ挙げると、「高齢者に特有の病気や障害についての基礎知識や関連情報」、「在宅（居宅）での高齢者の介護や看護の方法や関連情報」、「成人期のいろいろな病気や看護に関する基礎知識や関連情報」、「高齢者や病気の人の食事、排泄、入浴、睡眠など、日常生活の援助技術」、「こころの病気、精神障害と看護に関する基礎知識や関連情報」の順であり、高齢者に関する内容を学びたいと回答した人の割合が高かった。

これら学習したい内容に関して性別による差があるかどうか見たところ、男女間に有意差が見られたのは「4.在宅（居宅）での高齢者の介護や看護の方法や関連情報」、「6.子どものいろいろな病気に関する基礎知識や関連情報」、「7.子育て一般に関する基礎知識や関連情報」、「9.高齢者や病気の人の食事、排泄、入浴、睡眠など日常生活の援助技術」、「10.女性に特有の病気と看護に関する基礎知識や関連情報」、「11.男性に特有の病気と看護に関する基礎知識や関連情報」、「12.こころの病気、精神障害と看護に関する基礎知識や関連情報」の 7 項目であった。

（表 4.5-8-3、図 4.5-10-3）

表 . 4.5-8-3 インターネットを利用して学習してみたい内容

		学 び た い	学 び た く な い	分 か ら な い
内 容		人 数	人 数	人 数
1. 市全体や住んでいる地区の人口動態や医療・保健施策	合計	350	185	117
2. 高齢者が共に暮らすうえで、住みやすい・暮らしやす	合計	456	139	57
3. 高齢者に特有の病気や障害についての基礎知識や関連	合計	544	71	37
4. 在宅（居宅）での高齢者の介護や看護の方法や関連	合計	525	84	43
5. 成人期のいろいろな病気や看護に関する基礎知識や関	合計	516	82	54
6. 子どものいろいろな病気に関する基礎知識や関連情報	合計	418	174	60
7. 子育て一般に関する基礎知識や関連情報	合計	347	243	62

8. 思春期の発達課題や健康に関する基礎知識や関連情報	合計	334	256	62
9. 高齢者や病気の人の食事，排泄，入浴，睡眠など，	合計	507	99	46
10. 女性に特有の病気と看護に関する基礎知識や関連	合計	440	152	60
11. 男性に特有の病気と看護に関する基礎知識や関連情報	合計	473	123	56
12. こころの病気，精神障害と看護に関する基礎知識や	合計	480	123	49

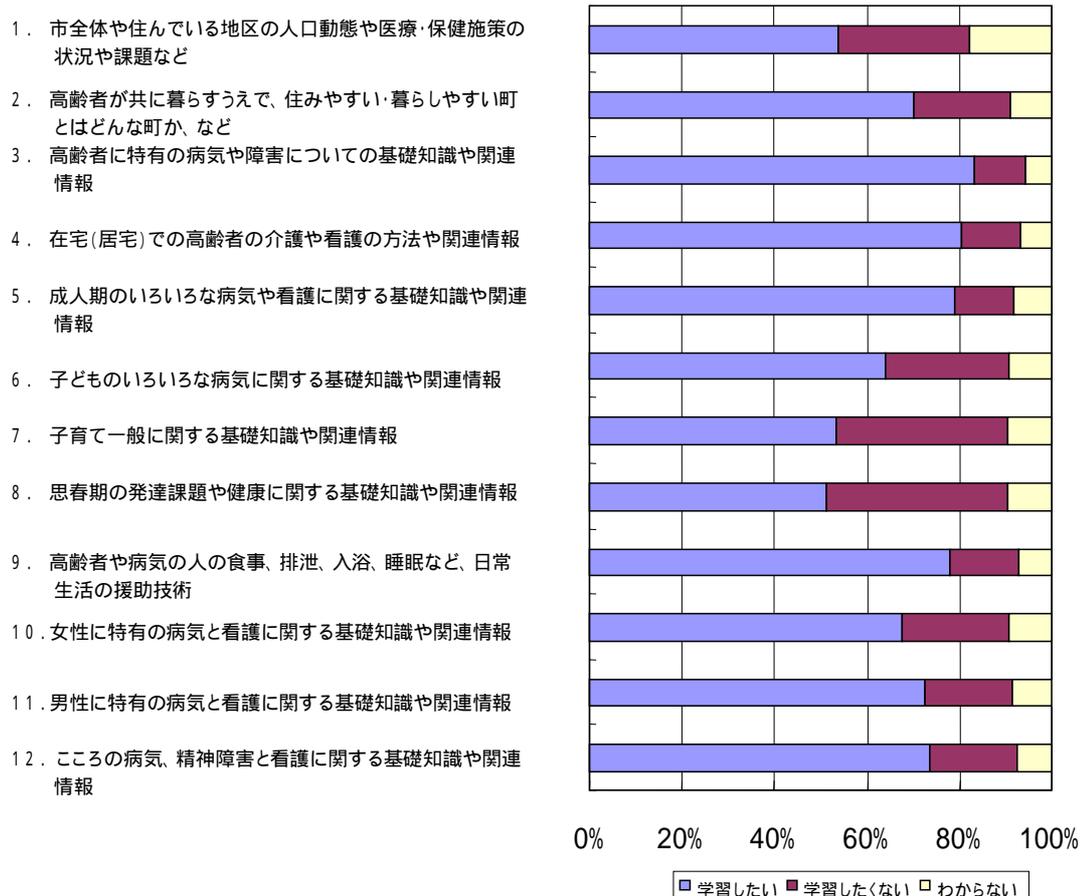


図4.5 -10-3 インターネットを利用して学習してみたい内容

情報化を進める上での留意点

情報化を進めていく際の留意すべき点について、3個以内の複数回答式で、当てはまる項目を選択してもらった。「個人情報の保護について留意すべきである」と回答した人が78.5%と、他に比べて著しく高かった。「インターネット上での犯罪や不正な接続などの防止」が53.5%、「コンピューター等を使いこなして情報を入手できる人と、そうでない人との格差の防止」が37.2%、「流通する情報の信頼性の確保」が33.0%であった。情報化社会における個人のプライバシー保護について、人々の関心の高さがうかがえる。インターネット犯罪や不正な接続の予防、信頼性の確保など、情報化を推進していく上で課題とすべき点には人々の関心が高いことがわかった。

(表 4.5-9、図 4.5-11)

表 4.5-9 情報化を進める上での留意点（限定回答（3個以内））

留意点	人数	割合
・コンピュータ等を使いこなして情報を入手できる人と、そうでない人との格差の防止	320	37.2%
・個人情報の保護	675	78.5%
・インターネット上での犯罪や不正な接続などの防止	460	53.5%
・インターネット利用での子どもの保護対策	56	6.5%
・顔と顔を合わせた人と人とのコミュニケーション環境づくり	121	14.1%
・知的所有権の保護	33	3.8%
・流通する情報の信頼性の確保	284	33.0%
・市からのわかりやすい情報提供の実現	201	23.4%
・高齢者や障害者が使用できるような環境づくり	233	27.1%
・無回答	23	2.7%

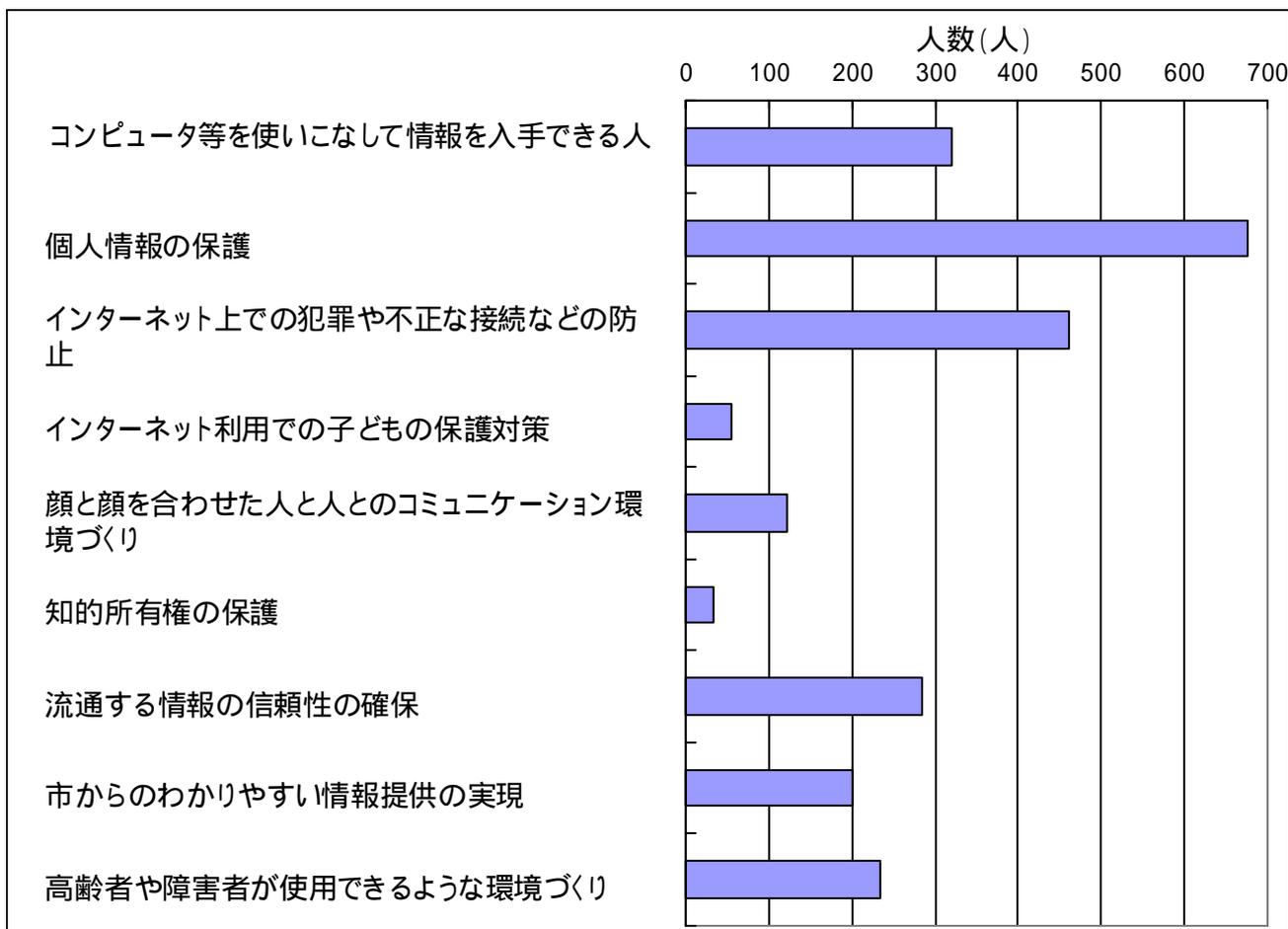


図 4.5-11 情報化を進める上での留意点

4.5.1.6 調査結果の要約

藤沢市において、2002年(平成14年)12月1日現在の住民基本台帳を基準に、1987年4月1日以前に出生している人388,280人を調査対象として、その中から、2000人を無作為抽出して、郵送配布、郵送回収による調査を実施した(抽出率=0.52%)。調査期間は2003年1月16日~2003年1月25日で、回答者数860人、回収率は43%であった。

回答者は藤沢市全域の10歳代から70歳代までの広い層にわたっていた。女性の回答者が男性より約10%多かった。回答者の特徴を見ると、50歳代女性が最も多く、次いで60歳代男性、40歳代女性、30歳代女性の順に多く回答していた。女性の多くは主婦層であった。

得られた結果のうち、本プロジェクト・市民健康講座プログラムの推進に影響すると思われる内容を要約すると以下のものであった。

(1) 藤沢市民の携帯電話・PHS利用率は60%を超え、携帯やPHSからの利用を含めたインターネット利用率は57.8%であった。総務省が10歳以上を対象に行った調査(2001年)による全国のインターネット利用率46.4%、神奈川県55.4%に比較して藤沢市民のインターネット利用率は高いと言え、情報リテラシーの高さがうかがえる結果であった。

(2) インターネットを「利用していない」と回答した人の51%が、今後「ぜひ利用してみたい」「できれば利用してみたい」と回答した。

(3) インターネットを「利用しない」主な理由は、「操作方法がわからない」が31.7%で最も多かった。藤沢市民のインターネット利用を促進するためには、操作方法学習へのサポートが重要であることがうかがえた。

(4) インターネットを利用した健康・医療・看護の情報取得、学習経験の有無について尋ねたところ、「利用したことがない」が71%であり、「利用したことがある」の26.3%を大きく上回った。インターネット利用率の高さから考えて、この分野のIT媒体による情報提供が遅れていることが推測された。

(5) 今後、インターネットなどを利用して健康・医療・看護の情報取得や学習を希望するかどうか尋ねたところ、「利用したい」が76%で、「利用したくない・利用できない」の21.3%を大きく上回った。

(6) インターネットを利用して学習してみたい健康・医療・看護の内容について質問したところ、どの内容も高い割合で学びたいと回答したが、多かった順に5つ挙げると、「高齢者に特有の病気や障害についての基礎知識や関連情報」「在宅(居宅)での高齢者の介護や看護の方法や関連情報」「成人期のいろいろな病気や看護に関する基礎知識や関連情報」「高齢者や病気の人の食事、排泄、入浴、睡眠など、日常生活の援助技術」「こころの病気、精神障害と看護に関する基礎知識や関連情報」の順であり、高齢者に関する内容を学びたいと回答した人の割合が高かった。

4.5.1.7 考察

本調査で得られた結果から、今後のe-ケアタウンプロジェクト・市民健康講座プログラムを推進する上で考慮すべき点が明らかになった。

藤沢市民の携帯電話・PHS利用率、インターネット利用率は高く、情報リテラシーも高いことがわかった。多くの市民がインターネットを利用して情報を得たい、学習をしたいと望んでいることもわかった。これらの結果から、インターネットを利用して情報を提供すること、インターネット上での講座を開講することは意義のあることと考えられた。

内容を健康・医療・看護に絞って質問したところ、回答者の7割以上がインターネットを利用して健康・医療・看護の情報取得や学習を希望すると回答しており、本e-

ケアタウンプロジェクト・市民健康講座へのニーズがあると考えられた。

しかしながら、インターネットを利用した健康・医療・看護の情報取得、学習の経験者は少なく、この分野のIT媒体による情報提供が遅れているのではないかと、あるいは内容が市民のニーズと合っていない可能性がある、ということが推測された。健康・医療・看護に関する情報の量や内容を充実させていく必要性が浮き彫りになった。

インターネットを利用して学習してみたい健康・医療・看護の内容について質問したところ、希望の多かった内容の上位5つの中に、高齢者に特有の病気や障害についての基礎知識や関連情報、在宅（居宅）での高齢者の介護や看護の方法や関連情報、高齢者や病気の人の食事、排泄、入浴、睡眠など、日常生活の援助技術が含まれ、高齢者の病気や障害とともに、看護の具体的な内容や方法を学びたいと考えている市民が多いということがわかった。今後、e-ケアタウンプロジェクト・市民健康講座プログラムで提供される情報にはこれらの内容を組み込む必要がある。

一方で現在インターネットを利用していない人たちに、インターネットを利用しない主な理由を尋ねたところ、「操作方法がわからない」が最も多かった。藤沢市民のインターネット利用をさらに促進するには、操作方法学習へのサポートが重要であると考えられた。

4.5.2 e - 市民健康講座（遠隔教育）開設のためのマルチメディアを用いた試作ビデオ教材の配信

本実証実験の状況を広く「市民に対してPRするための活動」として、インターネット上で市民健康講座を開講することとし、平成14年度はその準備としてビデオ、写真、イラスト、文字による教材を作成し配信した。

4.5.2.1 概要

ビデオ教材として、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで開催された、日本老年看護学会第7回学術集会において、看護医療学部教授が老年看護学の確立について講演した内容、および高齢者がインターネットを駆使し生活を楽しんでいる様子を紹介したシンポジウムの内容をビデオ収録し、インターネット上に公開した。また、看護医療学部主催で開催された藤沢市民向けの市民公開講座をビデオ収録および写真撮影し、これもインターネット上に公開した。さらに、市民特に藤沢市民が活用できる福祉サービスや介護に関する情報を提供するサイトとのリンク集を作成した。以上の過程を通じて作成された教材すべては、e-ケアタウンふじさわのホームページに公開し、市民の受信状況を観察した。また、プログラムの感想や改善への提言等についてウェブ上でアンケート調査を実施した。

4.5.2.2 実験目的

マルチメディア教材、動画と音声（ビデオ）、静止画（写真、イラスト）、文字データから成る教材を作成し、インターネットを介して市民に提供し、より分かりやすい、市民のニーズに沿った内容に改善するための資料とする。また、受信状況やインターネットを通じた健康関連情報取得の実態を把握し、今後の遠隔における市民健康講座開講への資料とする。

4.5.2.3 実験内容

e-ケアタウンふじさわのホームページの e-市民健康講座のウェブサイトを通じて、動画と音声（ビデオ教材5本）、静止画（写真、イラスト）、文字データ（ビデオ上のテロップ、リンク集、説明等）をインターネット経由で配信する。これらは本実証実験の状況を広く「市民に対してPRするための活動」であるとともに、介護とは日ごろ無縁の生活を送っている市民に健康や介護に関することを知ってもらうための情報発信サイトとした。

(1) 対象（モニター）

ウェブサイト、「e-ケアタウンふじさわ」、「e-市民健康講座」へのアクセス制限はない。アクセスした全員が対象である。

ウェブアンケートに関しては「e-ケアタウンプロジェクト」のホームページにアクセスし、ウェブサイト上で参加に同意した人を対象とする。人数の制限はない。

(2) モニター募集方法

藤沢市の広報、インターネットを利用して e-市民健康講座の受講希望者を募った。ウェブアンケートに関してはセキュリティを考慮した画面で趣旨説明と同意書を読み、同意を確認した後に、試作ビデオの視聴後にアンケートに記入してもらった。アンケート内容には個人情報に含まれないようにした。また、ウェブアンケートでは、ホームページアドレス、e-メールアドレス等の個人情報は特定されないため、匿名性は守られる。

ウェブアンケートのプロセスを、図 4.5.2-12 に示した。

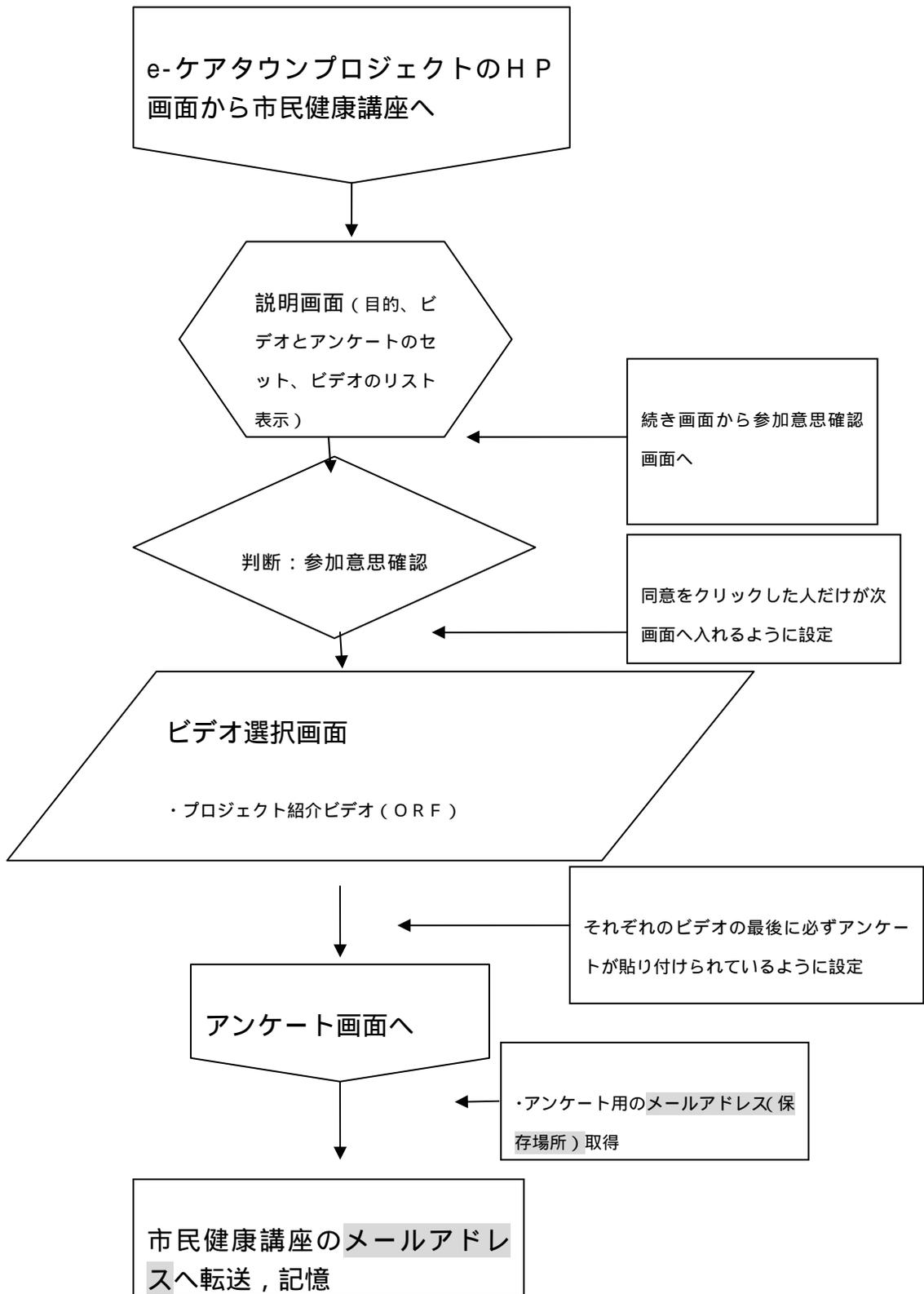


図 4.5.2-12 アクセスからアンケートに至るまでのプロセス

(3) モニターへの説明

ホームページに掲載されたモニターへの説明文を下記に示す。

このページは、藤沢市、財団法人藤沢市保健医療財団、慶應義塾大学、NTT 東日本の4組織が協力して取り組んでいる「e-ケアタウンプロジェクト」によって提供されています。このプロジェクトは、ITを活用することによって、看護や介護がゆきわたり、安心して暮らせるまちづくりをめざしたもので、総務省「e! プロジェクト」のひとつです。今後、より充実した、見やすく、分かりやすい内容にするために皆様のご感想、ご意見をお聞かせください。下の説明を読み、アンケートにお答えください。

1 目的

このプログラムは、ご自宅で、インターネットを利用したビデオを視聴していただき、健康に関する知識を深めていただくためのものです。改善のためにご意見を伺うアンケートとセットになっています。

2 内容

2.1 実験期間

2003年2月10日から3月10日まで

2.2 モニターになっていただく方の条件

プログラムに関心があり、ビデオを視聴する意思のある方。

プログラム開始以前に、ご自宅にADSL導入、または光回線敷設をなさっている方。

ご自宅にP C（パーソナルコンピュータ）をお持ちで、操作できる方。

なお、受講のために必要なP Cの仕様条件については、2.4をご覧ください。

ビデオ視聴後、Web上でのアンケート調査にご協力いただける方。

2.3 受講方法

インターネットを利用して、ご自宅で、モニターの方が自由に決めた時間に好みの内容を選んでビデオ視聴していただくことができます。受講に必要なパソコンの仕様条件については、2.4をご覧ください。

2.4 受講用のP Cの仕様条件、および必要な周辺機器

必要な項目は以下の通りです。5)のADSL（または光回線）によるインターネット接続もご準備ください。

1) Windows2000/Me/XP のいずれかで動作していること。

(Macintosh 利用者の場合は、別途、実証コンソーシアムにご相談ください。)

2) Windows Media Player および RealPlayer を動作させるため、以下の最小構成をみたしていること。(これ以下の動作環境では滑らかに再生できない場合があります。)

・最小構成 CPU: Pentium 500MHz 以上、メモリ 128MB 以上 HDD 空き容量 500MB 程度

・推奨構成 CPU: Pentium III 800MHz 以上、メモリ 256MB 以上 HDD 空き容量 500MB 程度

3) 1024x768 以上の解像度を持つディスプレイを有すること。

4) スピーカー等の音声デバイスを有すること。

5) ADSL (または光回線) によるインターネットへのアクセスができること。

2.5 アンケート

ビデオ視聴後のアンケートに、ご協力下さい。このデータは、プライバシーに関する十分な配慮をいたします。

なお、Web 上のアンケートでは、送信者のホームページアドレス、メールアドレスは本人が特別に記載しない限り、受信者にはわからないシステムになっています。

モニターの個人情報については、漏洩しないよう、研究者が厳重に管理します。

また、研究結果公表の際には、モニター個人を特定できるような記述はいたしません。

3 同意書について

Web画面で趣旨説明と同意書を読み、画面上で同意する・しないのボタンを押していただきます。同意する、のボタンを押したことをもって同意書が記入されたこととなります。

4. 終了の手続き

アンケートの回答をWeb画面から送付していただき、プログラムは終了となります。

5. 注意事項

(損害について)

プログラム受講によりモニターに生じた損害については、実証コンソーシアムは責任を負わないものとします。

6. 実施組織

e-ケアタウンふじさわ実証コンソーシアム(e-ケアタウンふじさわのパンフレット参照)

(藤沢市・財団法人藤沢市保健医療財団・慶應義塾大学・NTT 東日本)

7. モニター募集期間中のお問い合わせ先

慶應義塾大学 S F C 研究所内 e - ケアタウンふじさわモニター募集窓口

Tel : 0466-49-3618

Fax : 0466-49-3622

e - mail : info@e-care-project.jp

受付時間 : 10 : 00 ~ 12 : 00 , 13 : 00 ~ 17 : 00 (月 ~ 金)

(4) 試作ビデオプログラムの種類と内容

市民健康講座のトップページ (<http://www.e-care-project.jp/ecare/health/#video>) は、下のような構成となっており、クリックすれば4つの試作ビデオプログラムとお役立ちリンク集を閲覧できるようになっている。(図 4.5.3-13)



図 4.5.2-13 e-市民健康講座トップページ前半画面



図 4.5.2-14 e-市民健康講座トップページ後半画面

次に、それぞれの試作プログラムの内容紹介と構成を示す。

「とっさの時に、あなたも家族を救えます 市民にできる救命救急」

(内容の紹介)

2002年11月23日、慶応大学看護医療学部で行われた市民講座を収録したものです。家族や身近な人は突然倒れたとき、あなたがやるべきことは何かを、専門家が分かりやすく解説しています。藤沢市民がモデル人形を使って実技を学んでいる様子もご覧頂けます。(とっさの時、先ず119番に電話して、このビデオの方法を試みましょう!!)

プログラムの構成

ビデオ：市民のためのベーシック・ライフ・サポート(約45分)

ビデオ：救命救急の実際(約15分)

市民にできる救命救急(写真集)



http://www.e-care-project.jp/ecare/health/view_file.cgi?orf

図 4.5.2-15 No1 資料画面一部

「コンピューターでお友達の輪」(約 30 分)

(内容の紹介)

2002年11月3日、慶應義塾大学湘南キャンパスで行われた老年看護学会での大川加世子氏(コンピューターおばあちゃんの会代表)の講演を収録したものです。コンピューターを使ってお友達の輪を広げ、人生を楽しんでいらっしゃる様子をご紹介します。

プログラムの構成

『むすんで、ひらいて』をさせないで

インターネットでの交流

活動事例(1)

メーリングリストの紹介

活動事例（２）
晩年の生き方
最後に



http://gc.sfc.keio.ac.jp/class/2002_gc00002/slides/03/

図 4.5.2-16 No. 2 ビデオの目次画面

「老年看護方法論の確立をめざして（字幕付）」（約 30 分）

（内容の紹介）

2002 年 11 月 3 日、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで行われた老年看護学会での太田喜久子氏（同大学看護医療学部教授）の講演を収録したものです。高齢者と周囲の人々が共存する社会を創っていく必要性、熟練者が行うケアを科学的に説明し、看護方法を生み出すことの大切さなどを例で示しながら解説しています。（耳の不自由な方のために字幕付で配信しています。）

プログラムの構成

老年看護とは

老年看護の成り立ち：老年看護学

<科学の知>と<臨床知>：<科学の知>と<臨床知>比較、看護における知

老年看護学における方法論の開発：研究方法の比較

質的研究の取り組み：痴呆性高齢者の世界、研究の成果

実践と連携：せん妄とケアモデル

地域、社会への働きかけ：あらたな地域社会づくり “心温まる見守りネット”

老年看護方法論に含まれる要素

老年看護方法論の確立

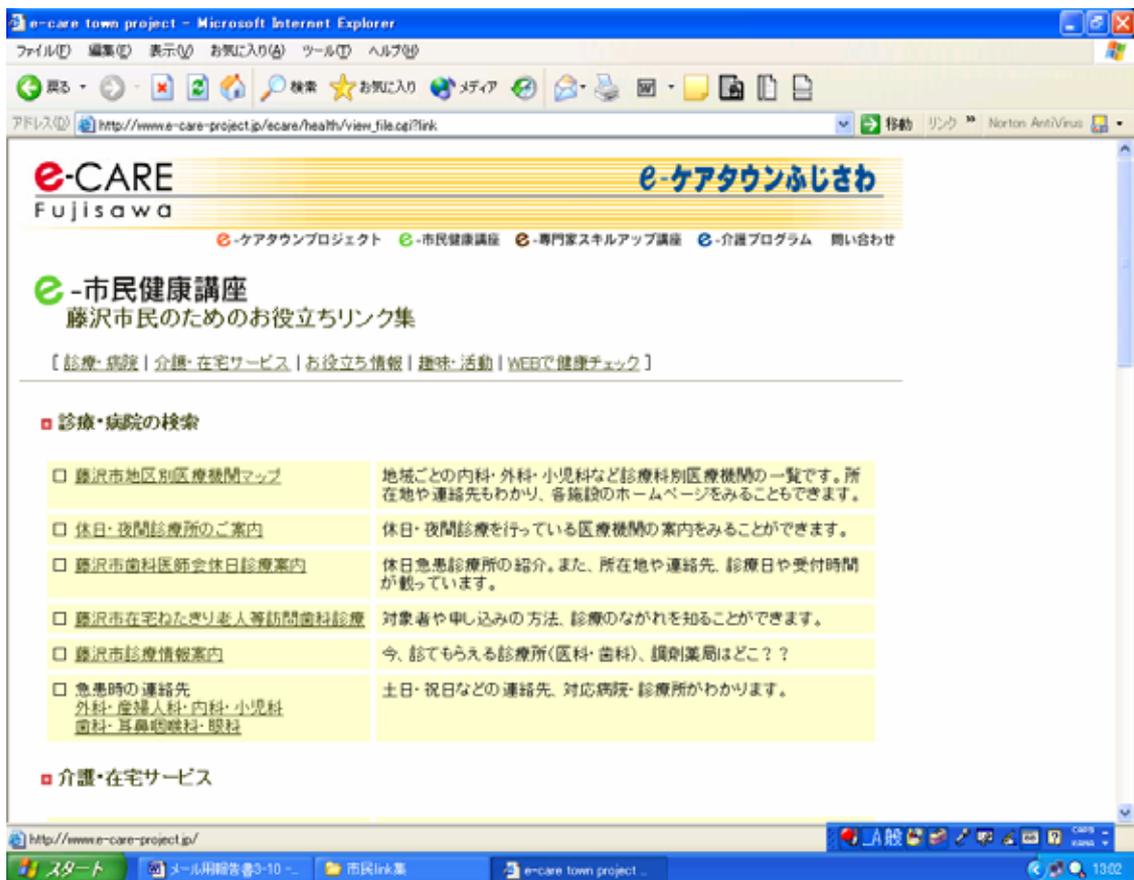


http://gc.sfc.keio.ac.jp/class/2002_gc00002/slides/01/

図 4.5.2-17 No.3 ビデオの目次画面

「老年看護におけるITを利用した情報流通の可能性の課題」(約30分)
(内容の紹介)

2002年11月3日、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで行われた老年看護学会での宮川祥子氏(同大学看護医療学部講師)の講演を収録したものです。情報機器を利用してより住みやすい環境をつくるためのプロジェクトの様々な取り組みを紹介しています。



http://www.e-care-project.jp/ecare/health/view_file.cgi?link

図 4.5.2-19 リンク集画面一部

インターネットの利用に慣れていない人でも検索しやすくするために、以下の5項目に分類した。

診療・病院（診療の流れ・病院の場所・診療可能時間など）

介護・在宅サービス（介護サービスの内容・利用方法・対象者など）

お役立ち情報（行政が提供しているサービスの内容・健康相談に関する情報）

趣味・活動（市民の健康増進を目的とした福祉活動・高齢者の交流の場となる施設の情報）

WEBで健康チェック（体力診断・健康診断情報）

また、情報としては、市民が分かりやすく利用できるように工夫し、それぞれのサイトに説明を加えた。（図.4.5.2-20～図 4.5.2-24 参照）

診療所・病院（診療の流れ・病院の場所・診療可能時間など）

<p>□ 藤沢市地区別医療機関マップ</p>	<p>地域ごとの内科・外科・小児科など診療科別医療機関の一覧です。所在地や連絡先もわかり、各施設のホームページをみることもできます。</p>
<p>□ 休日・夜間診療所のご案内</p>	<p>休日・夜間診療を行っている医療機関の案内をみることができます。</p>
<p>□ 藤沢市歯科医師会休日診療案内</p>	<p>休日急患診療所の紹介。また、所在地や連絡先、診療日や受付時間が載っています。</p>
<p>□ 藤沢市在宅ねたきり老人等訪問歯科診療</p>	<p>対象者や申し込みの方法、診療のながれを知ることができます。</p>
<p>□ 藤沢市診療情報案内</p>	<p>今、診てもらえる診療所（医科・歯科）調剤薬局はどこ??</p>
<p>□ 急患時の連絡先 外科・産婦人科・内科・小児科 歯科・耳鼻咽喉科・眼科</p>	<p>土日・祝日などの連絡先、対応病院・診療所がわかります。</p>

図 4.5.2-20 診療・病院の検索画面

介護・在宅サービス（介護サービスの内容・利用方法・対象者など

<p>□ 介護サービスを探している人</p>	<p>どのような介護サービスが受けられるのか、所在地や受けたいサービス内容、利用したい事業者などにより検索できます。</p>
<p>□ 在宅福祉サービスを探している人</p>	<p>お年寄りや障害のある方が安心して日常生活を送ることができるように藤沢市が提供している在宅福祉サービスの内容や対象者・費用などについて知ることができます。</p>
<p>□ 藤沢市在宅ねたきり老人等訪問歯科診療</p>	<p>対象者や申し込みの方法，診療のながれを知ることができます</p>

図 4.5.2-21 介護・在宅サービス検索画面

お役立ち情報（行政が提供しているサービスの内容・健康相談に関する情報）

<p>□ 支給・助成事業 [パート1 パート2]</p>	<p>市や国が提供している交通機関、入浴などの助成金・支給の対象やサービス内容について知ることができます。</p>
<p>□ 藤沢市地区別医療機関マップ</p>	<p>地域ごとの内科・外科・小児科など診療科別医療機関の一覧です。所在地や連絡先もわかり、各施設のホームページをみることもできます。</p>
<p>□ 藤沢市高齢福祉課からのお知らせ（各月）</p>	<p>藤沢市から、事業や計画、新しいサービスなどのお知らせをみることができます。</p>
<p>□ 市民健康課からのお知らせ</p>	<p>藤沢市から市民の方へ、講習会や健康相談などのお知らせです。</p>
<p>□ 保健医療センターからのお知らせ</p>	<p>健康相談、予防教室などのおしらせです。</p>
<p>□ 藤沢市保健福祉事務所からのお知らせ</p>	<p>健康相談・家族の会・セミナーなどのお知らせです。</p>

図 4.5.2-22 お役立ち情報検索画面

趣味・活動（市民の健康増進を目的とした福祉活動・高齢者の交流の場となる施設の情報）

<p>□ 藤沢市生涯学習大学かわせみ学園</p>	<p>かがやき・はばたき・いきいきの三つの学部があり、市民教養学科・放送通信学科・生涯学習ボランティア学科健康福祉学科などがあります。地域作りや社会参加、いきがいや健康、子育て支援など様々な講座が開かれています。</p>
<p>□ 老人クラブ</p>	<p>高齢者の親睦、健康増進を中心としたレクリエーション活動、福祉活動、地域活動を行っています。対象者、入会方法、連絡先などがわかります。</p>
<p>□ 施設案内</p>	<p>(老人センター、老人憩いの家、老人ふれあいの家、養護老人ホーム) 高齢者が使用することのできる施設の所在地、電話番号などの一覧をみることができます。</p>

図 4.5.2-23 趣味・活動情報検索画面

WEBで健康チェック（体力診断・健康診断情報）

<p>□ 栄養診断チェックシステム (SHIDAX)</p>	<p>9分野24問。体格チェック、食事スタイル、生活運動量、食品バランス、嗜好品、総合評価でそれぞれ評価がでます。</p>
<p>□ GAME生活習慣チェック (武田食品)</p>	<p>10問の質問に答えると現在の健康状態が100点満点で表わされる。可愛い生活習慣チェック。</p>
<p>□ 生活習慣病自己診断 (A.P.M)</p>	<p>糖尿病、高血圧、動脈硬化、肥満度の自己診断を行う。</p>
<p>□ healthクリック「ストレス」情報のページ</p>	<p>ストレスとは何か、ストレスと病気、ストレス解消法が一覧で分かりやすくまとめられています。</p>
<p>□ 職業性ストレス簡易評価ホームページ</p>	<p>仕事のストレスや最近1ヶ月のストレスを簡単なチェック項目で調べられるサイト。</p>
<p>□ 体力年齢チェック (セントラルスポーツ)</p>	<p>あなたの体力年齢はいくつでしょう？</p>
<p>□ あなたの血圧カルテ (カルピス)</p>	<p>今のあなたがどのくらい血圧に気を使っているか、これからどのくらい健康管理を行うべきか、1つずつのアドバイスが出る。質問は13問。結果をハートマークの数で示す。</p>
<p>□ NHKデジタル人間ドック (NHK健康HP)</p>	<p>15問。生活習慣と健康診断の検査値</p>

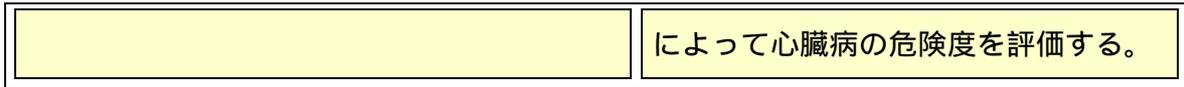


図 4.5.2-24 WEB で健康チェック検索画面

(6) ウェブサイト上でのアンケートについて

ウェブサイト上にアクセスした人を対象にしたアンケートを以下のように作成した。

< 意思確認画面 > を下記に示す。

私は上記説明を読み理解した上で、このプログラムに参加することに同意します。

押しボタン はい いいえ

私はアンケートの記入に同意します。

押しボタン はい いいえ

両方はいの人のみビデオの見方を説明して、ビデオが見られるように設定されている。アンケート入力画面を次に示す。(図 4.5.2-25)

(3) 3 0 ~ 3 9 歳

(7) 7 0 ~ 7 9 歳

(4) 4 0 ~ 4 9 歳

(8) 8 0 歳 ~

2 . 性別 (1) 男 (2) 女

3 . お住まいは藤沢市内ですか？

(1) はい、藤沢市内です

(2) いいえ、藤沢市以外です

3 . この e ケアタウンプロジェクトのホームページにアクセスしようと思われた理由は何ですか？ 該当するものに一つ をつけてください

テーマ，内容に関心があったから

地元（藤沢市）の大学だから

画面が見やすいから

偶然に

その他（ ）

4 . どのビデオをご覧になりましたか？ 該当するものに をつけてください（複数可）

(1) e-ケアタウンプロジェクトの概要（ORF，慶応，市，財団法人藤沢医療センター，NTT

7. ビデオを見て、全体的な印象はどうでしたか？ 該当するものに一つ をつけて下さい

(1) とても分かりやすかった (2) 分かりやすかった

(3) 少しわかりにくかった (4) 分かりにくかった

(5) とてもわかりにくかった

8. ビデオの時間はどうでしたか？ 該当するものに一つ をつけて下さい。

(1) 長い (2) 少し長い (3) ちょうど良い長さ

(4) 少し短い (5) 短い

9. 画面映像は見やすかったですか？ 該当するものに一つ をつけて下さい。

(1) とても見やすかった (2) 見やすかった

(3) 少し見にくかった (4) 見にくかった

(5) とても見にくかった

10. 画面映像のうち、動画(人の話)、静止画、文字のバランスはどうでしたか？ 該当するものに一つ をつけて下さい。

(1) 人の話や動画がもっと多い方がよい (2) 静止画がもっと多い方がよい

(3) 文字での説明がもっと多い方がよい (4) 今の割合でよい

(5) その他 ()

1 1 . 音声は聞きやすかったですか？ 該当するものに一つ をつけて下さい。

(1) とても聞きやすかった (2) 聞きやすかった

(3) 少し聞きにくかった (4) 聞きにくかった

(5) とても聞きにくかった

1 2 . 内容は役立つと思いますか？ 該当するものに一つ をつけて下さい。

(1) とても役立つと思う (2) 役立つと思う

(3) あまり役立たないと思う (4) 役立たないと思う

(5) 全く役立たないと思う

1 3 . 今後、改善した方がよいと思う点をお書き下さい

1 4 . 今後、利用を希望するインターネット上の市民健康講座の内容についておたずねします。当てはまるところに をつけて下さい。また、項目にない場合は、希望内容をお書き下さい。

	ぜひ学習したい	どちらかといえば学習したい	どちらでもない	あまり学習したいと思わない	まったく学習したいと思わない
インターネットで学習してみたい内容					
市, 居住地区の人口動態や医療・保健施策の状況や課題など	1	2	3	4	5
2. 高齢者が, みんなが, 住みやすい・暮らしやすい町とはどんな町か, など	1	2	3	4	5
3. 高齢者に特有の病気や障害について	1	2	3	4	5
4. 在宅(居宅)での高齢者の介護や看護の方法, 関連情報	1	2	3	4	5
5. 成人期のいろいろな病気や看護に関する基礎知識や関連情報	1	2	3	4	5
6. 子どものいろいろな病気に関する基礎知識や関連情報	1	2	3	4	5
7. 子育て一般に関する基礎知識や関連情報	1	2	3	4	5
8. 思春期の発達課題や健康に関する基礎知識や関連情報	1	2	3	4	5

4.5.2.4 実験結果

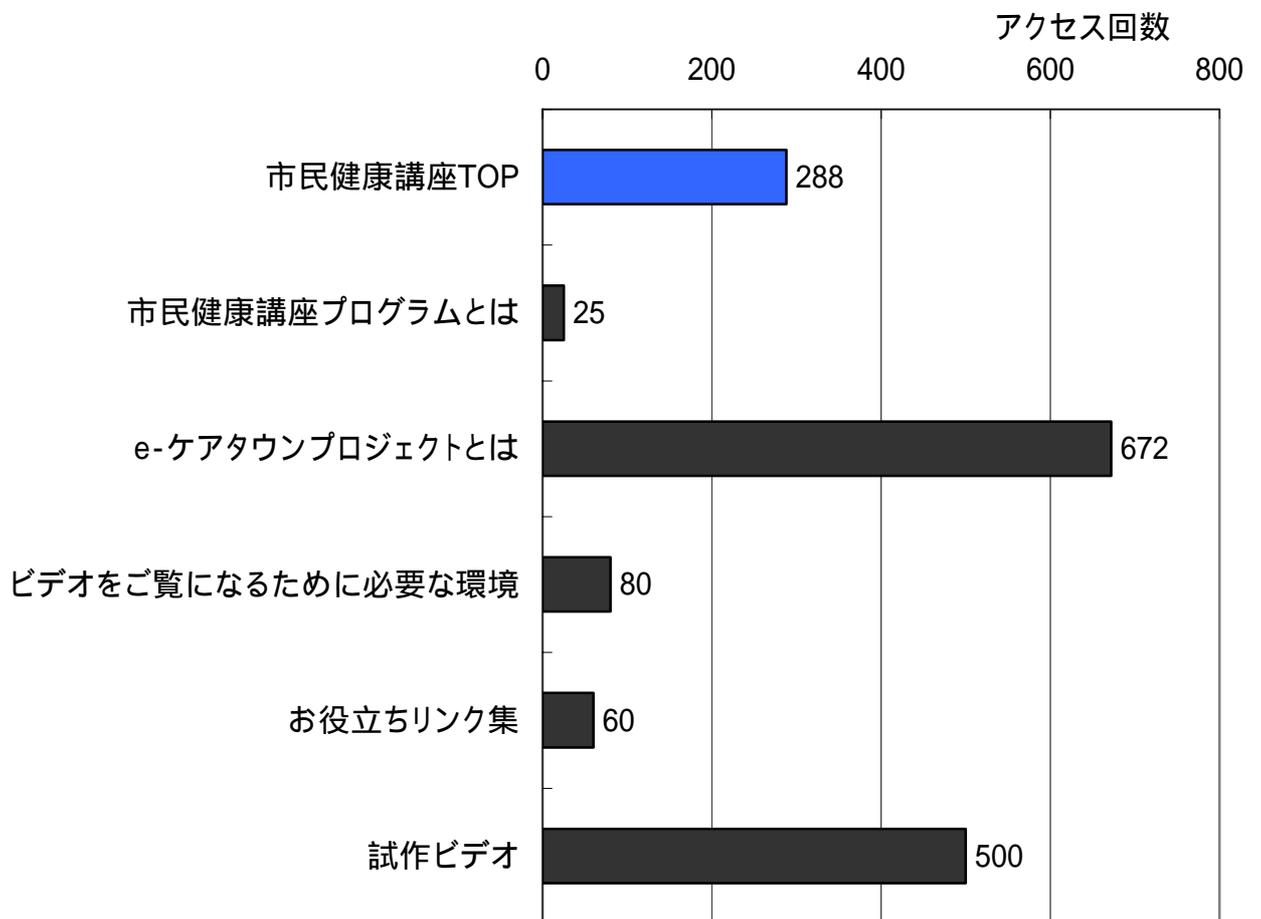
市民健康講座のホームページにアクセスした場合を、アクセス一回とカウントし、その回数を集計した。

(1) e-ケアタウンふじさわのホームページのe-市民健康講座のトップページの文字データ、静止画（写真、イラスト）、動画と音声（ビデオ）は配信後、アクセスがあり、受信されていた。

(2) e-市民健康講座のトップページへのアクセス総回数は288回であった。

トップページからアクセスできるウェブサイトには、「市民健康講座プログラムとは?」「e-ケアタウンプロジェクトとは」「ビデオをご覧になるための必要な環境」「お役立ちリンク集」がある。

その中では、「e-ケアタウンプロジェクトとは」が672回で、最も多い結果であった。「市民健康講座プログラムとは」へのアクセスは25回と非常に少なかった。トップページへアクセスされた総数の内訳を、以下のグラフ（図4.5.2-15）に示した。



注) 試作ビデオアクセス件数は4つの試作ビデオに対するアクセスの総回数で、別途図 4.5.2-27 とし
て再掲

図 4.5.2-26 e-市民健康講座のトップページサイトへのアクセス回数の内訳

(3) 試作ビデオへのアクセス総数は、500 回であった。その内訳は、以下のグラフ(図 4.4B.2-27)に示す。試作ビデオの中では、「老年介護方法論」に対するアクセスが153 回と最も多い。「市民のための Basic Life support」に対するアクセスは、準備中であったが57 回アクセスされていた。「市民にできる救命救急(写真集)」については、カウントできていない。

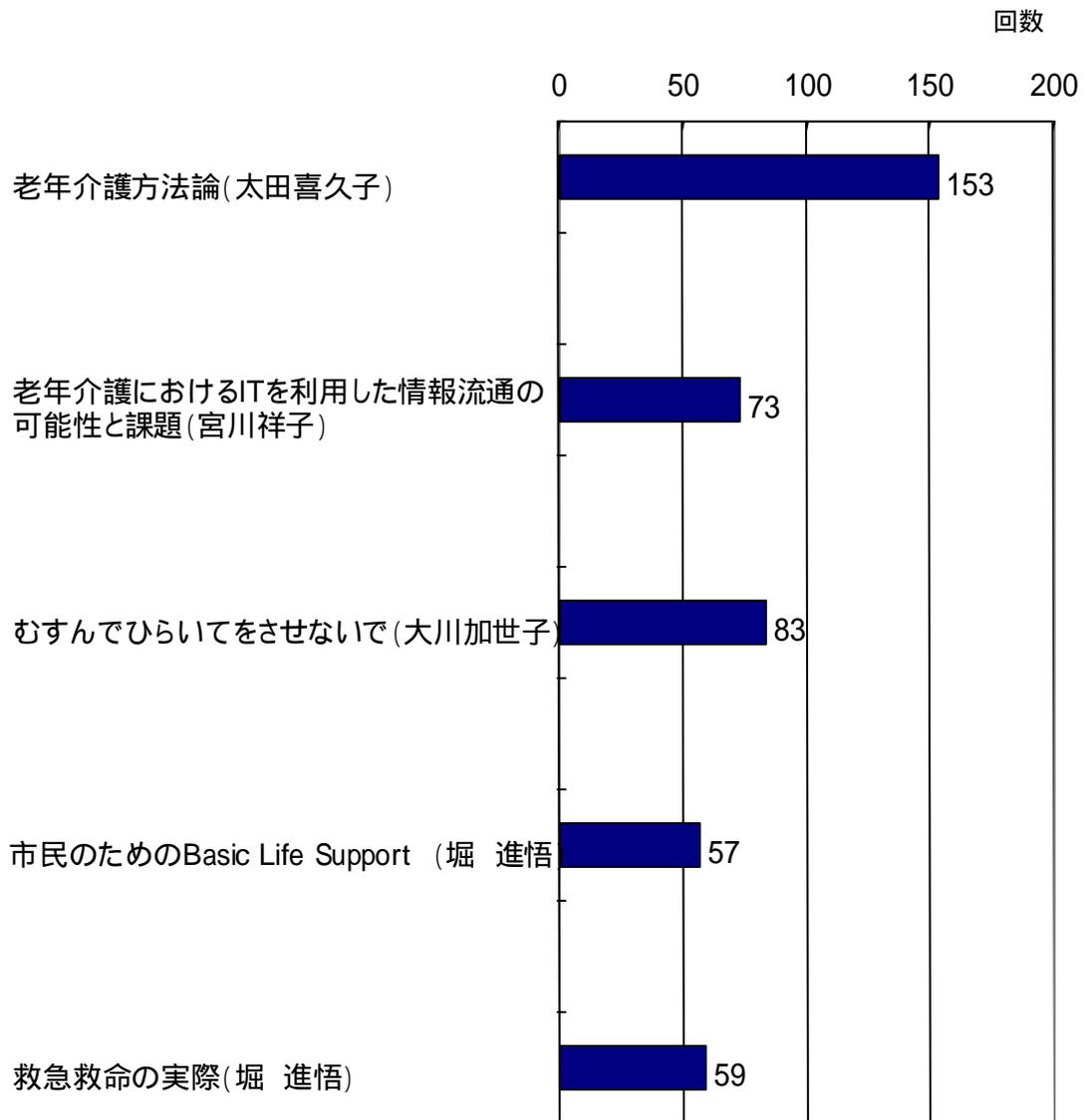


図 4.4B.2-27 試作ビデオへのアクセス回数の内訳

(4) 試作ビデオ 6 本を撮影編集し、e-市民健康講座ページに公開して、ビデオ視聴後の感想や今後配信して欲しいビデオ内容等についてウェブ上でアンケートを行った。しかし、アンケート回答者はなく、0 件であった。操作上の不備がないことは確認されている。

4.5.2.5 考察

今回の実験結果から明らかになったことを、以下に述べていきたい。本プロジェクトの「e-市民健康講座」へのアクセスは、予防的健康づくり、主体的な健康管理（セルフケア）への関心の高さを示すものといえるだろう。だが、そうした知識を得る上で、インターネット利用がより有効な手段となるためには、いくつかの課題をクリアしなければならないと思われる。

(1) アクセス状況から分析される、市民対象の情報配信のあり方

今回の web の設定では「e-ケアタウンプロジェクトとは」「ビデオをご覧になるために必要な環境」「お役立ちリンク集」が、複数のサイトからアクセス可能なのに対して、「市民健康講座プログラムとは」の部分は、市民健康講座のトップページからのアクセスに限定されていた。そのためアクセス回数による単純比較はできないが、アクセス状況の概要、数十回から多いものは百回以上のアクセスがあったことが明らかになった。

ビデオにアクセスした対象の特性は明らかではないが、老年介護方法論へのアクセスが他の試作ビデオに比べて多かった要因として、高齢者への看護や介護への関心のある人が、このプログラムにアクセスしたことが推測される。老年介護方法論の試作ビデオがプログラムの一番初めに設定されていたことも要因の一つとして考えられる。ビデオの内容は、日本老年学会員である看護職者を対象にしているために、市民への情報提供としては内容が専門的になり過ぎており、市民向けに分かりやすく工夫する必要があったと考える。

ただし、今回の調査では、ビデオを最後まで見たのか、途中で中止したのか、1回で中止したのか、詳細について判断はできない。その上、試作プログラム関係者によるアクセスや同一個人からの複数回に及ぶアクセスもカウントされていることなどを考慮すると、アクセス総回数 500 回は必ずしも多いとは言えない。

(2) アンケート結果をふまえた問題点の分析

今回の実験ではビデオ視聴後のアンケートへの回答が得られなかったことから、テーマや内容への関心の度合い、ビデオ視聴後の全体的な印象、画面の見やすさ、上映時間の長さ、画面映像の動画・静止画・文字のバランス、音声など改善する点やインターネットで学習してみたい内容など、市民からの情報が得られなかった。

こうした結果に到った原因と考えられる4点を挙げる。

第1に、宣伝活動である。今年度は、主に藤沢市の広報を利用した募集を行ったが、市民に広く行きわたるよう、宣伝活動をさらに積極的に展開する必要があったと考えられる。

第2に、実験期間の短さが挙げられる。実験期間は2月10日から3月10日までの28日間であり、このプログラムが市民に認識され、浸透するまでの期間としては短かったと考えられる。

第3として、健康・医療・看護分野のIT媒体による情報提供が遅れている可能性があることが挙げられる。このことは、「藤沢市民の情報化推進に関する意識と遠隔教育に対するニーズ調査」では、藤沢市のインターネット利用率57.8%にもかかわらず、インターネットを利用した健康・医療・看護の情報取得、学習経験の有無については、「利用したことがない」が71%であり、「利用したことがある」の26.3%を大きく上回っていることから推察される。

また、「ビデオの視聴」は娯楽感覚で捉えられ、その後のアンケートの回答まで到らなかった可能性がある。インターネットを用いて、ホームページにアクセスするまでの過程、そこでビデオを選択して視聴し、さらにはアンケートの回答をするという過程まで関心を維持するに至らなかったことが第4に挙げられる。パソコン操作 ビデオ操作（動画） ビデオ視聴 アンケート回答は、技術的、時間的負担感が生じていたとも考えられる。つまり、面倒さに繋がったと推察できる。

さらに第5点として、パソコン上の意思確認画面で同意後のアンケート調査は、一般的に普及していないと考えられ、このため、安全性を危惧して容易に答えることへの抵抗感が生じるということも考慮したい。

一般的傾向として、ITを活用した健康に関するサービスの認知度が低く利用者がまだ少ない現実があるのではないかと考えられる。また、インターネットを利用する際には、検索画面などでキーワード検索することが多いが、今回は十分考慮してキーワードの登録をしていないこともあるのではないかと推察される。

4.5.3 今後のe-ケアタウンプロジェクト・市民健康講座プログラム推進の課題と展望

今回、藤沢市民を対象に行ったニーズ調査と、インターネットを經由して、動画と音声（ビデオ）、静止画（写真、イラスト）、文字データを配信した後の受信状況の結果から、今後の課題を検討する。藤沢市民の多くがインターネットを利用して情報を得たい、学習したいと考えていること、そして、健康・医療・看護に関する情報取得や学習を希望していることが明らかになった。本プロジェクト・市民健康講座プロ

ラムを推進していくことは重要である。

健康・医療・看護に関する IT 媒体による情報提供が遅れているのではないかと、あるいは内容が市民のニーズと合っていない可能性があるということも推測される。健康・医療・看護に関する情報の量や内容を充実させていく必要性も浮き彫りになった。

今後、IT 化を進めていく際の留意すべき点について質問したところ、「個人情報の保護について留意すべきである」と回答した人の割合が著しく高かった。次いで、「インターネット上での犯罪や不正な接続などの防止」、「コンピューター等を使いこなしで情報を入手できる人と、そうでない人との格差の防止」、「流通する情報の信頼性の確保」などが挙げられた。情報化社会における個人のプライバシー保護、インターネット犯罪や不正な接続の予防、信頼性の確保など、IT 化を推進していく上で課題とすべき点について、藤沢市民の関心の高さがうかがえる結果であった。今後、本プロジェクトを推進して行くにあたっては、これらについて十分注意していくことが必要である。

今後、本プロジェクトを推進して行くにあたっては、インターネットを利用したいと考えていながら学習の機会がない市民へ学習の機会を提供すること、性質上、双方向の情報交換が必須であることから、個人情報の保護に十分留意すること、提供する情報の内容を市民のニーズ合わせて考えること、信頼性のある、質の高い情報を提供していくことなどが重要となる。

また、プロジェクトを推進していくにあたって藤沢市民の IT 利用率の高さ、IT リテラシーの高さはプラス要因である。課題の解決に取り組み、市民を巻き込んで展開していくことが重要であろう。

<添付資料 1 . >

くらしと情報化に関する市民意識調査のお願い

新しい年を迎え、皆様におかれましてはますますご健勝のことと存じます。

最近の情報通信技術の進展は、大変めざましいものがあり、パソコンやインターネットなども私たちの生活の中に急速に普及しています。

また、国は2005年までに世界最先端のIT（情報通信技術）国家になることを目指し、「電子政府」の実現など積極的に情報化の推進を行っています。

さて本市においても、2000年8月に「情報化に関する市民意識調査」を実施し、この結果を踏まえ、2001年3月に「藤沢市地域IT基本計画」を策定しています。

現在は、この具体化に取り組んでいるところですが、皆様の現状や意識の変化等を把握し、計画事業の実施や新たな施策にも積極的に取り組みたいと考えています。

この調査は、市民の皆様に、情報化の状況やお考えなどをお伺いして、今後の施策を進めるための貴重な資料とさせていただくものですが、今回の調査では、慶應義塾大学（SFC）等との協力で実施する「e-ケアタウンふじさわ」（介護や福祉の分野での遠隔学習（e-ラーニング））に関する調査も含んでいます。

何かとお忙しい時期ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

2003年（平成15年）1月

藤沢市長 山本捷雄

「e-ケアタウンふじさわ」は、IT国家の姿を国民に、そして世界に分かりやすく示すために計画された総務省の「e!プロジェクト」の介護福祉分野において採択されたもので、インターネットの新しい技術を使った実証実験です。

<http://www.e-care-project.jp/>

ご回答にあたって

この調査は、2002年（平成14年）12月1日現在の住民基本台帳を基準に、1987年4月1日以前にお生まれになった方から2,000人を無作為に選ばせていただき、お尋ねするものです。

無記名の調査ですので、お名前やご住所をご記入いただくことはありません。

また、回答は統計的な処理をし、個々の回答を他の目的に利用することはありません。

この調査は、ご本人がお答えくださいますよう、お願いいたします。

ご本人がご記入になれない場合は、ご家族などがご本人に代わって（代筆）ご記入されてもかまいません。

2003年（平成15年）1月1日の状況でご記入ください。

設問文をよくご覧の上、それぞれの回答方法にしたがって、あてはまる回答をご記入ください。設問は12問あり、ご記入には15分程度のお時間をいただきます。

ご記入が終わりましたら、1月25日（土）までに、同封の返信用封筒（切手不要）にてご返送ください。

ご不明な点につきましては、お手数ですが下記お問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ先

藤沢市 企画部情報推進課 田中 理・石井恒男

電話：0466-50-3505 Fax：0466-28-2641

電子メール：joho006@city.fujisawa.kanagawa.jp

I. あなたご自身についてお伺いします。

1. あなたの性別はどちらですか？ あてはまる選択肢に をつけてください。

1. 男性

2. 女性

2. 2003年1月1日現在のあなたの年齢について、以下の枠にご記入下さい。

--

3. 現在あなたがお住まいの地域はどちらですか？
以下の選択肢よりあてはまるもの1つに をつけて下さい。

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| 1. 片瀬地区 | 2. 鵜沼地区 | 3. 辻堂地区 |
| 4. 村岡地区 | 5. 藤沢地区 | 6. 明治地区 |
| 7. 善行地区 | 8. 湘南大庭地区 | 9. 六会地区 |
| 10. 湘南台地区 | 11. 遠藤地区 | 12. 長後地区 |
| 13. 御所見地区 | | |

4. 現在のあなたのご職業について、以下の選択肢よりあてはまるもの1つに をつけて下さい。

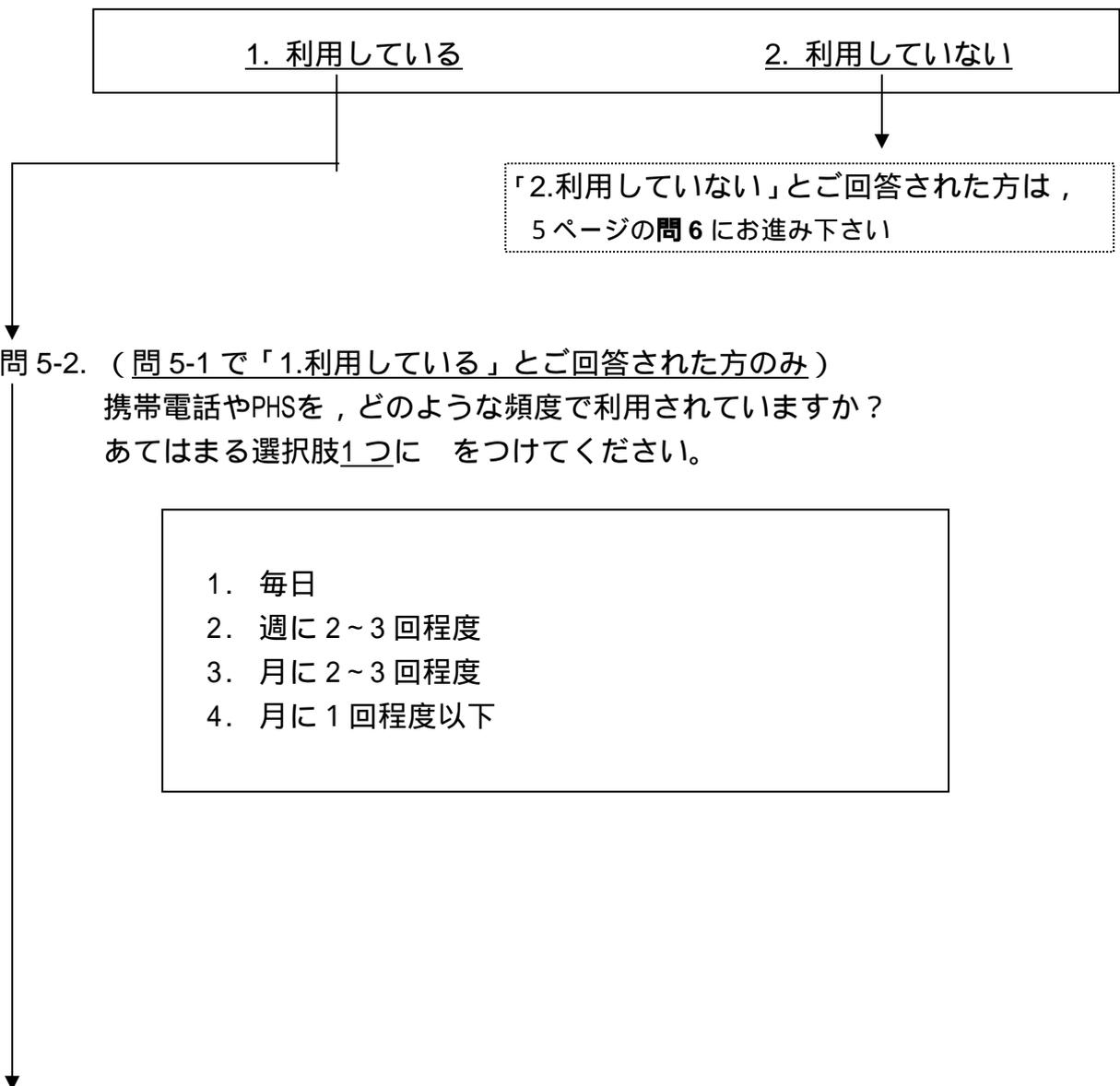
- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 農林漁業（家族従事者を含む）2. 商工サービス自営業（各種の卸店，小売店などの経営者及び家族従事者）3. 自由業（開業医，弁護士，芸術家，芸能人，スポーツ選手など）4. 経営・管理職（会社，団体，官公庁の課長職以上）5. 専門技術職（研究員，技術者，裁判官，病院勤務医師，看護婦（士）など）6. 事務職（事務系会社員，事務系公務員，警察官，駅員など）7. 教育職（幼稚園・小・中・高校教師，保育士など）8. 技能職（工場などの生産工程従事者，運転士，電話交換手など）9. 販売サービス職（商店，飲食店，サービス業などの従事者）10. 学生11. 主婦（専業）12. 主婦（パート，内職）13. その他 |
|---|

14. 無職

II. 情報機器や情報サービスのご利用についてお伺いします。

問 5. あなたの携帯電話や PHS（簡易型携帯電話）のご利用について、以下の設問にご回答下さい。

問 5-1. 現在あなたは、携帯電話やPHSを利用していますか？
あてはまる選択肢1つに をつけてください。

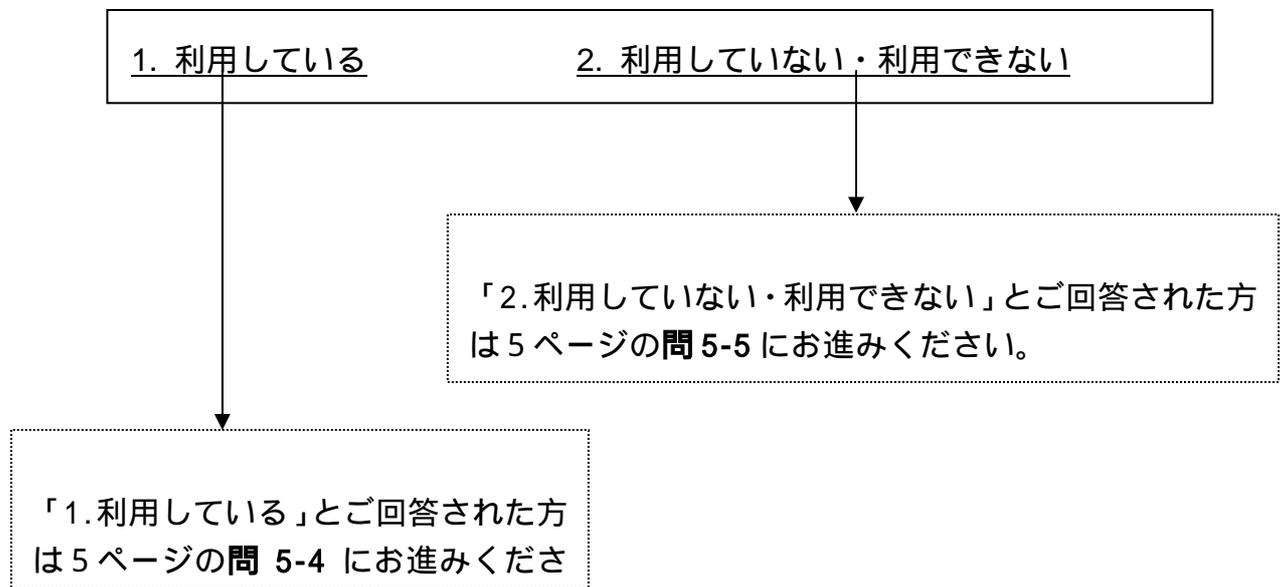




問 5-3. (問 5-1 で「1.利用している」とご回答された方のみ)

携帯電話やPHSからのメールなどのインターネット接続サービス
(i-modeやJ-SKY , ez-webなど)を利用していますか？

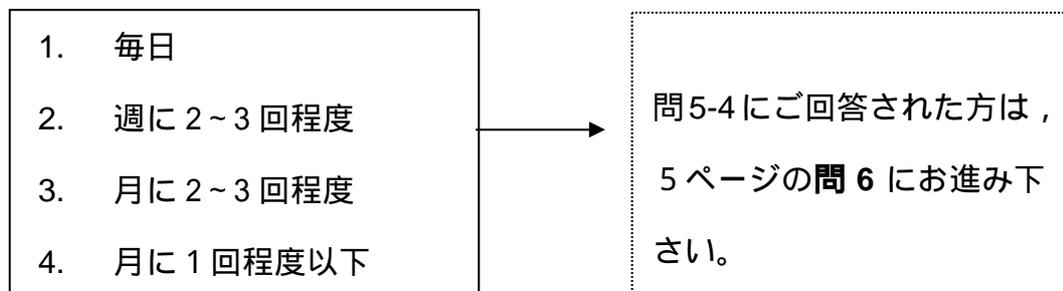
あてはまる選択肢1つに をつけてください。



問 5-4. (問 5-3 で「1.利用している」とご回答された方のみ)

携帯電話やPHSからメールなどのインターネット接続サービス(i-mode
やJ-SKY , ez-webなど)は、どのような頻度でご利用されていますか？

あてはまる選択肢1つに をつけてください。



問 5-5. (問 5-3 で「2.利用していない・利用できない」とご回答された方のみ)

携帯電話やPHSからメールなどのインターネット接続サービス(i-modeやJ-SKY, ez-webなど)の今後の利用について、どのようにお考えでしょうか？

あてあまる選択肢1つに をつけてください。

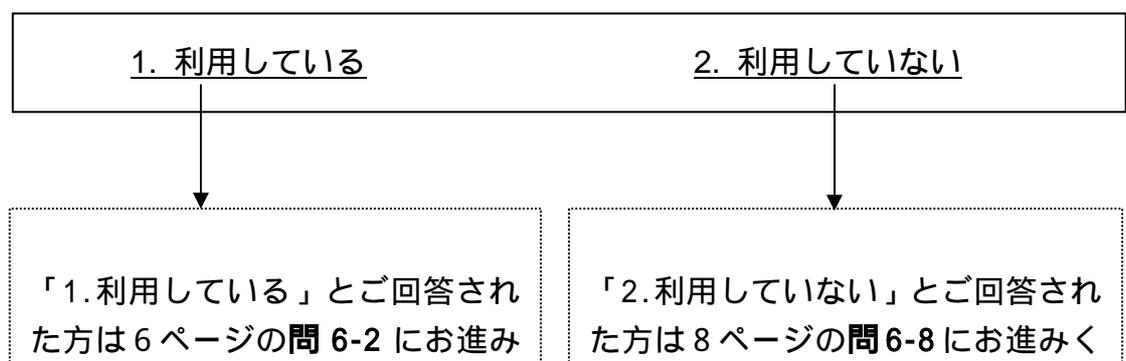
1. ぜひ利用したいと思っている
2. できれば利用したいと思っている
3. 特に利用したいとは思わない
4. わからない

問 6. あなたのインターネット利用状況について、以下の設問にご回答下さい。

(問 5 でお伺いした、携帯電話やPHSからメールなどのインターネット接続サービスも含めてお答え下さい。また、パソコンに限らず、ザウルスなどの携帯端末機やゲーム機なども含めて下さい。)

問 6-1. あなたは、現在インターネットを利用していますか？

あてはまる選択肢1つに をつけて下さい。



問 6-2. (問 6-1 で、「1. 利用している」とご回答された方のみ)

あなたは、現在インターネットをどのような頻度で利用していますか？

あてはまる選択肢1つに をつけてください。

1. 毎日
2. 週に 2~3 回程度
3. 月に 2~3 回程度
4. 月に 1 回程度以下

問 6-3. (問 6-1 で「1. 利用している」とご回答された方のみ)

あなたは、現在インターネットをどこで利用していますか？ あてはまる選択肢すべてに をつけてください。

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 自宅 | 2. 職場 | 3. 学校 | 4. その他 |
|-------|-------|-------|--------|

問 6-4. (問 6-1 で「1. 利用している」とご回答された方のみ)

あなたが、インターネットに接続している環境はどれですか？

あてはまる選択肢すべてに をつけて下さい。

1. アナログ回線
2. I S D N回線
3. A D S L回線
4. F T T H回線 (B フレッツ等の光ケーブル)
5. C A T Vインターネット回線
6. モバイル (携帯電話)
7. その他

8. わからない



問 6-5. (問 6-1 で「1. 利用している」とご回答された方のみ)

あなたは、個人でインターネットのホームページを公開していますか？
あてはまる選択肢1つに をつけてください。

1. 公開している

2. 公開していない

問 6-6. (問 6-1 で「1. 利用している」とご回答された方のみ)

あなたは、インターネットの電子メールをどの程度の頻度で送受信されていますか？

あてはまる選択肢1つに をつけてください。

1. 毎日
2. 週に 2～3 回程度
3. 月に 2～3 回程度
4. 月に 1 回程度以下
5. 利用していない



問 6-7. (問 6-1 で「1. 利用している」とご回答された方のみ)

あなたは、藤沢市域のホームページ(下図参照)を平均してどの程度の頻度で
ご覧になりますか？



図：藤沢市域のホームページ(<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp>)
あてはまる選択肢1つに をつけてください。

1. 毎日
2. 週に 2～3 回程度
3. 月に 2～3 回程度
4. 月に 1 回程度以下
5. 知っているが見たことはない
6. 知らなかった

9 ページの間 7 にお進み下さい。

問 6-8. (問 6-1 で「2. いいえ」とご回答された方のみ) あなたが、インターネットをご利用されない主な理由は何ですか？

以下の選択肢からあてはまるもの3つ以内で をつけてください。

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. パソコンなどの機器がない | 2. 操作方法がわからない |
| 3. 機器や通信に費用がかかる | 4. 始めるきっかけがない |
| 5. 利用価値が感じられない | 6. 魅力のある情報が少ない |
| 7. 身体的な理由でできない | 8. その他 |

問 6-9. (問 6-1 で「2. いいえ」とご回答された方のみ) あなたは、今後インターネットを利用してみたいと考えておられますか？

以下の選択肢からあてはまるもの1つに をつけてください。

- | |
|-----------------|
| 1. ぜひ利用してみたい |
| 2. できれば利用してみたい |
| 3. 特に利用したいと思わない |
| 4. わからない |

III. 情報化への期待などについてお伺いします。

問7. あなたは、藤沢市からの各種のお知らせなど市政に関する情報を、どのような方法でお知りになりますか？

以下の選択肢からあてはまるものすべてに をつけてください。

1. 「広報ふじさわ」(藤沢市の広報紙)
2. 「藤沢市議会だより」(市議会の広報紙)
3. 「スポーツの広場」など各課作成の情報誌やパンフレット類
4. インターネットの藤沢市ホームページ
(電縁都市ふじさわ <http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp>)
5. ふじさわくらしのテレフォン・ファックスガイド
(電話・FAXによる24時間情報提供サービス)
6. 藤沢ケーブルテレビの「テレビ広報」
(藤沢パステルタイム, ウィークリー藤沢, インフォメーション藤沢など)
7. 藤沢エフエム放送(レディオ湘南 83.1MHz)の「広報番組」
8. 直接来庁して職員から聞く
9. 直接電話して職員から聞く
10. その他

問 8. あなたは、将来、インターネットなどを利用して地域や身の回りの情報化が進むことにより、どのような効果を期待しますか？

以下の選択肢からあてはまるもの3つ以内で をつけてください。

1. いつでもどこでも必要な情報が、簡単に入手できる
2. 自宅で手軽にショッピングやレジャー情報を入手できるようになる
3. 自宅で手軽に医療や福祉などのサービスを受けられるようになる
4. テレビ会議の利用や在宅勤務の進展で、労働時間や通勤時間が短縮され余暇の時間が増える
5. 遠隔学習や電子図書館などの実現により、教育や文化の水準が向上する
6. 遠隔地や外国の人々との交流ができ、交際範囲や行動範囲が拡大する
7. 自分の意見や映像、音楽などの作品を多くの人に伝えることができる

- 用語解説 -

遠隔学習 : 遠隔地間の教師と受講者を通信回線で結び、学習サービスを提供する仕組み。映像を使った通信教育や遠隔地の講座などで、その場で質問ができる等、双方向でのやり取りができる。

電子図書館 : 家庭のテレビやパソコンなどを利用して、図書館に所蔵されている文献や資料映像を検索したり、見ることができる。

問 9. あなたは、将来以下のような行政サービスが実現された場合、どの程度利用したいと思いますか？ 下記 1～9 のサービス項目それぞれについて、あてはまる番号1つに をつけてください。

サービス項目	ぜひ利用したい	どちらかといえば 利用したい	あまり利用したいと 思わない	まったく利用したいと 思わない	わからない
1. インターネットを利用して、24 時間どこからでも市政に関する問い合わせができる	1	2	3	4	5
2. インターネットを利用して、24 時間どこからでも市政への提言・参画ができる	1	2	3	4	5
3. インターネットを利用して、24 時間どこからでも各種の申請手続きができる	1	2	3	4	5
4. インターネットを利用して、24 時間どこからでも公共施設の利用予約ができる	1	2	3	4	5
5. 藤沢市のホームページから質、量ともに充実した市政情報が取得できる	1	2	3	4	5
6. 電子メールで市政の紹介や、「広報ふじさわ」の記事紹介が定期的に届く	1	2	3	4	5
7. 市役所や市民センター等の公共施設で、銀行の自動支払機のような専用の端末機で、各種証明書の発行や公共施設の予約ができる	1	2	3	4	5

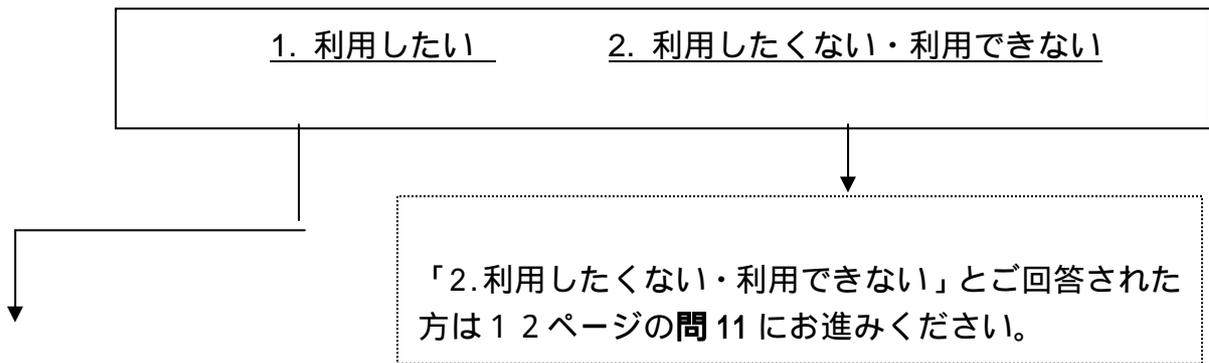
8. コンビニエンスストア・郵便局・駅などで、各種証明書の発行や公共施設の予約ができる	1	2	3	4	5
9. 安全性が確保された一枚のカードで、行政サービス、医療・福祉サービス、料金支払いなどを全て行うことができる	1	2	3	4	5

問 10. 藤沢市は、総務省の「e！プロジェクト」介護福祉分野での実施地域に選定され、慶應義塾大学、財団法人藤沢市保健医療財団、NTT東日本とともに「e-ケアタウンふじさわ」というプロジェクトを推進しようとしています。その中にインターネットを利用した市民健康講座を開講するというプログラムがあります。将来、コンピューター、インターネットを利用して、自宅で、自分の好きな時間に、好きな内容を選んで自由に学習することが可能になる予定です。このことについて、次の質問についてご回答ください。

問 10-1. これまでに、インターネットなどを利用して、健康や、医療、看護についての情報を得たり、学習したことがありますか？
あてはまる選択肢一つに をつけてください。

1. 利用したことがある	2. 利用したことがない
--------------	--------------

問 10-2. 将来、環境・条件が整えば、インターネットなどを利用して、健康や、医療、看護についての情報を得たり、学習したりしようと思いませんか？
あてはまる選択肢一つに をつけてください。





問 10-3. (問 10-2 で、「1. 利用したい」とご回答された方のみ)

次ページの表の左には、健康や、医療、看護に関連する内容が書かれています。それぞれの内容について、インターネットを利用して学習してみたいと思いますか？

次ページ 1～12 の項目それぞれについて、あてはまる番号1つに をつけてください。

	ぜひ学習したい	どちらかといえば学習したい	あまり学習したいと思わない	まったく学習したいと思わない	わからない
インターネットで学習してみたい内容					
1. 市全体や住んでいる地区の人口動態や医療・保健施策の状況や課題など	1	2	3	4	5
2. 高齢者が共に暮らすうえで、住みやすい・暮らしやすい町とはどんな町か、など	1	2	3	4	5
3. 高齢者に特有の病気や障害についての基礎知識や関連情報	1	2	3	4	5
4. 在宅(居宅)での高齢者の介護や看護の方法や関連情報	1	2	3	4	5

5. 成人期のいろいろな病気や看護に関する基礎知識や関連情報	1	2	3	4	5
6. 子どものいろいろな病気に関する基礎知識や関連情報	1	2	3	4	5
7. 子育て一般に関する基礎知識や関連情報	1	2	3	4	5
8. 思春期の発達課題や健康に関する基礎知識や関連情報	1	2	3	4	5
9. 高齢者や病気の人への食事 ,排泄 ,入浴 ,睡眠など , 日常生活の援助技術	1	2	3	4	5
10. 女性に特有の病気と看護に関する基礎知識や関連情報	1	2	3	4	5
11. 男性に特有の病気と看護に関する基礎知識や関連情報	1	2	3	4	5
12. こころの病気 , 精神障害と看護に関する基礎知識や関連情報	1	2	3	4	5

IV. 情報化に関して留意すべき点についてお伺いします。

問 11. 藤沢市が地域の情報化を進める上で、特に留意してほしいと思うことは何ですか？

以下の選択肢から 特に重要と思うもの3つ以内で をつけてください。

1. コンピュータなどを使いこなして情報を入手できる人と、そうでない人との格差の防止
2. 個人情報の保護
3. インターネット上での犯罪や不正な接続などの防止
4. インターネット利用での子どもの保護対策（閲覧制限など）
5. 顔と顔を合わせた人と人とのコミュニケーション環境づくり
6. 知的所有権（著作権など）保護
7. 流通する情報の信頼性の確保
8. 市からのわかりやすい情報提供の実現
9. 高齢者や障害者が使用できるような環境づくり

問 12. 最後に、藤沢市の情報化の推進にあたり、藤沢市に期待する取り組みや役割についてご意見などがありましたら、以下の回答欄に自由にご記入下さい。

（回答欄）

記入が終わりましたら、1月25日（土）までに、同封の返信用封筒（切手不要）にて返送してください。

ご協力ありがとうございました。